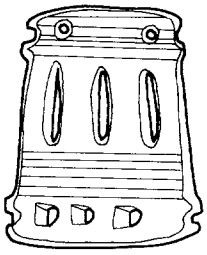
市原市文化財センター年報

昭和59年度



財団法人 市原市文化財センター

序

当センターは，市原市内における埋蔵文化財の調査研究，及び市民への文化財保護思想の普及と涵養を図るとともに，開発と文化財保護の調和を図り，市民生活の向上と地域文化の充実に寄与することを目的とし，昭和57年４月１日に設立されました。以降３年９ヶ月が経過し，昭和61年度事業量の飛躍的増加に伴い，機構，人員，施設が拡充整備され，当センターにとっても，新しい局面を迎えているところです。

昭和61年度は，受託事業も大規模なものが多くなり，新たに国分寺台事務所も開設され，調査体制も再編成されました。この国分寺台事務所は，昭和60年３月31日まで，市原市国分寺台遺跡調査会によって使用されていたものですが，同会の解散に伴い，今年度以降の調査，整理事業を当センターが行うことに共伴い録，遺物類と共に移管されました。

当センターも設立後４年目を迎え，今後は調査研究事業に加え，普及事業に対しても目を向けるべく，すこしづつ活動を開始したところです。まず，収蔵庫の一画には，ささやかですが資料を陳列し，見学できるコーナーを設けました。ここには，当センター及び国分寺台遺跡調査会によって調査され出土した代表的な遺物が整理さています。第２には，埋蔵文化財を現地で見て，肌で触れることにより，一層の理解を深めていただくために，遺跡の現地見学会を開催しております。すでに下鈴野遺跡，山田橋表通遺跡において実施され，好評を得ており，今後も定期的に開催する予定であります。第３には，一般市民向けの小冊子「私たちの文化財」を当面年４回発行し，最新のニュースをお知らせする事により，文化財が身近なものとなるよう努めたいと思います。さらに，普及事業の年度毎の総まとめとして，各年度に調査して得られた成果の発表会や講演会なども計画しております。今後は，これらの普及事業の成果も，年報の中に反映させて行きたいと考えております。

本年度は，年報の刊行が変則的になりましたが，昭和60年度分からは本来の年報として機能するようにしたいと存じます。

最後に，当センターの事業に対して，常に御指導と御協力を賜っております千葉県教育委員会と市原市教育委員会及び関係各位に対し，深く感謝申し上げます。

昭 和 61 年 1 月

財団法人　市原文化財センター
理事長　　星　野　一　郎

目　　次

序
I　昭和59年度の機構 …… 1
II　昭和59年度事業概要 …… 2
III　昭和59年度調査概要 …… 5
1．能満上細工多遺跡 …… 7
2．上大堀遺跡 …… 12
3．西山遺跡 …… 15
4．村上城跡（上総国府推定地） …… 17
5．花和田遺跡 …… 19
6．下ヶ谷台遺跡 …… 22
7．椎津中林遺跡 …… 25
8．沢遺跡 …… 28
9．(大厩)浅間様古墳 …… 31
10．永田・不入窯跡 …… 35
11．萩ノ原北遺跡 …… 38
12．千草山遺跡 …… 40
13．山田大宮遺跡 …… 41
14．下鈴野遺跡 …… 44
IV　昭和59年度受贈図書一覧 …… 46

Ⅰ　昭和５９年度の機構

昭和59年度の市原市文化財センターの機構は，役員・職員で構成されている。役員は，寄附行為の定めにより，理事長，副理事長，常務理事，理事，監事をもって構成され，職員は，事務職員４名（内派遣職員１名）・技術職員10名（内派遣職員７名）であり，その組織及び氏名等は下表のとおりである。

(1) 組　織

役員　　職員

理事長
副理事長
常務理事
理　事
監　事

- 庶務課　課長　主事　主事補　嘱託事務員
- 調査課　課長　主任調査研究員　調査研究員　嘱託調査研究員　嘱託事務員

(2) 役　員

職　名	役職名	氏　名
理事長	教育委員会教育長	星野　一郎
副理事長	教育委員会教育指導部長	横濱　辰夫
常務理事	専任	井原　茂
理事	早稲田大学名誉教授	滝口　宏
理事	和洋女子大学教授	寺村　光晴
理事	姉崎神社宮司	海上信久

職　名	役職名	氏　名
理事	市企画部長	櫻井　徹郎
理事	市総務部長	松崎　良一
理事	市都市部長	中島　英夫
理事	市総務部財政課長	松下　隆
監事	市会計課長	白鳥　一夫
監事	教育委員会総務課長	山口　節

(3) 職　員

所　属	職　名	氏　名
庶務課	課長	小茶文夫
	主事	浅利幸一
	主事補	相野光江
	事務員（嘱託）	秋田晴美
	事務員（嘱託）	塚本和江
調査課	課長	郷田良一
	主任調査研究員	山口直樹

調査課	調査研究員	宮本敬一
	調査研究員	米田耕之助
	（兼）調査研究員	浅利　幸一
	調査研究員	近藤　敏
	調査研究員	高橋　康男
	調査研究員	田所　真
	調査研究員（嘱託）	鈴木　英啓
	事務員（嘱託）	高浦　貞子

II　昭和５９年度事業概要

(1)　理事会の開催

①　第１回理事会　　昭和59年５月30日　　会場　市原市役所 901会議室

議案第１号　昭和58事業年度事業報告について

議案第２号　昭和58事業年度歳入歳出決算について

②　書面表決　　昭和59年７月９日

議案第１号　昭和59事業年度新規事業の受託について

（南総ゴルフ場増設工事に伴う埋蔵文化財調査）

③　第２回理事会　　昭和59年12月５日　　会場　市原市役所 901会議室

議案第１号　補正予算（第１号）について

議案第２号　諸規程の改正について

④　書面表決　　昭和60年３月13日

議案第１号　昭和59事業年度新規事業の受託について

１．文化施設建設に伴う埋蔵文化財調査

２．今富郵便局建設に伴う埋蔵文化財調査

３．（仮称）帝京科学技術大学の用地に係る埋蔵文化財確認調査

⑤　第３回理事会　　昭和60年３月27日　　会場　市原市役所 801会議室

議案第１号　補正予算（ 第２号 ）について

議案第２号　昭和60事業年度事業計画について

議案第３号　昭和60事業年度歳入歳出予算について

議案第４号　諸規程の改正について

(2)　会計監査

昭和59事業年度の会計監査は，昭和60年５月22日財団法人市原市文化財センター事務所において，白鳥一夫，松本辰之助両監事により実施された。

(3)　職員研修

①　職員研修会

昭和60年２月２日　　（１日間）　　技術講習　「文化財における写真撮影・航空写真」（中央航業株式会社）

②　研修会への派遣

昭和59年度市町村埋蔵文化財担当職員技術講習会　　派遣先　千葉県文化課

一般課程　　昭和59年５月８月～５月10日（３日間）　　１名

昭和59年６月19日～６月20日（２日間）　　１名

(3)　昭和59年度報告書刊行事業

①　『池ノ谷遺跡・福増遺跡』

②　『永田・不入窯跡』

③　『草刈貝塚』

(4)　普及活動

調査報告書の刊行と頒布

『池ノ谷遺跡・福増遺跡』他２冊

(5)　昭和59年度調査事業

番号	継続又は新規	事業名	委託者	遺跡 名称及び種別	遺跡 面積・数量	事業内容	契約年月日	契約金額	終了年月日	精算金額
1	継続	下水処理場関連工事に伴う埋蔵文化財調査	市原市	菊間手永貝塚（縄文貝塚）	3,000㎡	整理	59. 4. 4	9,924,000円	60. 3.25	9,924,000円
2	継続	都市計画道路草刈西広線建設に伴う埋蔵文化調査	市原市	草刈貝塚（縄文貝塚）	3,860	整理	59. 4. 2	1,968,000	59. 6.15	1,968,000
						報告書刊行	59. 8.22	8,736,000	60. 3.25	8,736,000
3	継続	福増清掃工場建設工事に伴う埋蔵文化財調査	市原市	池ノ谷・福増遺跡（土師集落址・古墳）	2,500 古墳1基	整理 報告書刊行	59. 4. 2	7,780,000	60. 3.31	7,780,000
4	新規	市道114号線改良工事に伴う埋蔵文化財調査	市原市	下中貝遺跡他（縄文・土師分布地）	9,000	確認調査	59. 4. 9	9,730,000	60. 3.27	9,730,000
						本調査	59. 7.23	9,583,000	60. 3.27	9,583,000
5	新規	都市計画道路若塚・小田部線建設に伴う埋蔵文化財調査	市原市	上大堀遺跡（縄文・土師散布地）	3,900	確認調査	59. 4. 2	5,228,000	60. 3.25	5,228,000
						本調査	59. 7. 3	14,522,000	60. 3.25	14,522,000
6	新規	都市計画道路草刈西広線建設に伴う埋蔵文化財調査(2)	市原市	西山遺跡（土師散布地）	4,500	確認調査	59. 9. 1	5,015,000	59.10.31	5,015,000
						本調査	59.11.12	14,173,000	60. 3.25	14,173,000
							59.11.12	2,856,000	60. 3.30	2,856,000
7	新規	国府小学校プール建設に伴う埋蔵文化財調査	市原市	上総国府跡推定地（土師散布地）	500	確認調査	59. 4. 2（変更 59.5.1）	6,692,000	59. 5.12	6,692,000
8	新規	浄水場建設に伴う埋蔵文化財調査	市原市	荘和田遺跡（縄文・土師散布地）	2,000 塚1基	本調査	59. 4.10	15,795,000	60. 3.27	15,795,000
9	新規	大作地区農道整備に伴う埋蔵文化財調査	市原市	下ケ谷台遺跡（土師散布地）	2,700	確認調査	59.11. 1	4,752,000	60. 3.27	4,752,000
						本調査	60. 2. 1	8,888,000	60. 3.31	8,888,000
10	新規	市道111号線改良工事に伴う埋蔵文化財調査	市原市	中林遺跡（土師散布地）	5,000	確認調査	60. 3.14	2,697,000	60. 3.30	2,697,000
11	新規	南総運動広場建設に伴う埋蔵文化財調査	市原市	沢遺跡（土師散布地）	14,000 700	確認・本調査	59. 8. 1（変更 59.11.7）	20,150,000	60. 3.25	20,150,000
12	新規	樹脂場造成に伴う埋蔵文化財調査	丸山組	浅間様古墳（古墳）	2,171 古墳1基	本調査・整理	59. 4. 2	18,992,000	59. 9.20	14,975,000
13	新規	県営圃場整備に伴う埋蔵文化財調査	市原市	永田・不入窯址（須恵器窯址）	3,000	確認調査 整理・報告書刊行	59.10.22	8,536,000	60. 2.28	8,535,708
14	新規	南総ゴルフ場増設工事に伴う埋蔵文化財調査	土地興業株式会社	萩ノ原北遺跡（土師散布地）	4,600	確認調査	59. 8. 1	10,683,000	59.11.30	9,372,000
15	新規	文化施設建設に伴う埋蔵文化財調査	市原市	千草山遺跡（土師散布地）	1,500	確認調査	59.12.26	11,739,000	60. 3.31（60. 5.25）	11,739,000
16	新規	今富郵便局建設に伴う埋蔵文化財調査	関東郵政局	大宮遺跡（土師散布地）	1,221.99	本調査	60. 2.28	3,534,000	60. 3.30	3,534,000
17	新規	（仮称）帝京技術科学大学の用地に係る埋蔵文化財確認調査	市原市	下鈴野遺跡（土師散布地）	8,670	確認調査	60. 3.13（変更 60.3.20）	29,571,000	60. 3.30	29,571,000

(6) 昭和59年度決算報告

収入

(単位：円)

科目	予算額 当初予算額	予算額 補正予算額	予算額 合計	決算額	予算現額に比べ決算額の増減	備考
(款) 事業収益	227,182,000	2,532,000	229,714,000	227,180,019	△2,533,981	
(項) 事業収益	223,550,000	5,346,000	228,896,000	226,215,708	△2,680,292	
(目) 受託事業収入	222,430,000	6,466,000	228,896,000	226,215,708	△2,680,292	
(目) 普及事業収入	1,120,000	△1,120,000	0	—	—	
(項) 事業外収益	978,000	△ 161,000	817,000	819,111	2,111	
(目) 預金利息	537,000	△ 152,000	385,000	385,379	379	
(目) 有価証券利息	10,000	10,000	20,000	21,232	1,232	
(目) 基本金見返り定期預金利息	431,000	△ 19,000	412,000	412,500	500	
(項) 雑収益	2,654,000	△2,653,000	1,000	145,200	144,200	
(目) 雑収入	1,000	—	1,000	145,200	144,200	
(目) 前年度繰越金	2,653,000	△2,653,000	0	—	—	
合計	227,182,000	2,532,000	229,714,000	227,180,019	△2,533,981	

支出

(単位：円)

科目	予算額 当初予算額	予算額 補正予算額	予算額 合計	決算額	不用額	備考
(款) 事業費	227,182,000	2,532,000	229,714,000	227,180,019	2,533,981	
(項) 受託事業費	205,584,000	9,119,000	214,703,000	212,428,719	2,274,281	
(目) 報酬	9,420,000	△ 807,000	8,613,000	8,582,751	30,249	
(目) 報償費	340,000	△ 281,000	59,000	47,190	11,810	
(目) 職員費	37,455,000	1,870,000	39,325,000	39,791,270	△ 466,270	
(目) 賃金	78,260,000	5,209,000	83,469,000	78,870,334	4,598,666	
(目) 旅費	447,000	△ 203,000	244,000	235,590	8,410	
(目) 法定福利費	4,732,000	1,265,000	5,997,000	5,618,149	378,851	
(目) 委託料	22,449,000	3,160,000	35,609,000	38,684,000	△ 3,075,000	
(目) 使用料及び賃借料	38,560,000	△ 9,040,000	29,520,000	28,208,419	1,311,581	
(目) 需用費	13,350,000	△ 1,487,000	11,863,000	11,658,666	204,334	
(目) 役務費	186,000	△ 182,000	4,000	350	3,650	
(目) 雑費	385,000	△ 385,000	0	—	—	
(目) 原材料費	—	—	—	732,000	△ 732,000	賃金より732,000円充当
(項) 研究事業費	1,554,000	△ 1,000,000	554,000	520,136	33,864	
(目) 報償費	60,000	△ 10,000	50,000	50,000	0	
(目) 賃金	480,000	△ 138,000	342,000	342,000	0	
(目) 旅費	60,000	△ 58,000	2,000	1,900	100	
(目) 法定福利費	4,000	△ 1,000	3,000	1,710	1,290	
(目) 会議費	50,000	△ 30,000	20,000	—	20,000	
(目) 需要費	900,000	△ 765,000	135,000	123,176	11,824	
(目) 役務費	—	2,000	2,000	1,350	650	
(項) 普及事業費	3,090,000	△ 2,000,000	1,090,000	1,019,120	70,880	
(目) 需要費	3,050,000	△ 2,020,000	1,030,000	999,120	30,880	
(目) 役務費	40,000	20,000	60,000	20,000	40,000	
(項) 一般管理費	14,937,000	△ 1,570,000	13,367,000	13,212,044	154,956	
(目) 報酬	2,430,000	60,000	2,490,000	2,490,000	0	
(目) 報償費	400,000	325,000	725,000	665,000	60,000	
(目) 賃金	2,200,000	△ 1,726,000	474,000	471,400	2,600	
(目) 旅費	1,600,000	—	1,600,000	1,560,430	39,570	
(目) 法定福利費	—	—	—	14,805	△ 14,805	使用料及び賃借料より14,805円充当
(目) 厚生費	300,000	△ 120,000	180,000	180,800	△ 800	
(目) 委託料	780,000	△ 120,000	660,000	660,000	0	
(目) 会議費	400,000	—	400,000	309,010	90,990	
(目) 使用料及び賃借料	260,000	40,000	300,000	278,950	21,050	
(目) 需要費	4,300,000	△ 165,000	4,135,000	4,263,149	△ 128,149	
(目) 役務費	650,000	74,000	724,000	725,850	△ 1,850	
(目) 退職給与金	277,000	—	277,000	320,600	△ 43,600	
(目) 公課費	30,000	22,000	52,000	51,700	300	
(目) 交際費	130,000	—	130,000	130,250	△ 250	
(目) 雑費	110 000	40,000	150,000	124,700	25,300	
(目) 減価償却費	1,070,000	—	1,070,000	849,600	220,400	会議費より90,990円、雑費より64,810円それぞれ充当
(目) 退職給与引当費	—	—	—	115,800	△ 115,800	
(項) 予備費	2,017,000	△ 2,017,000	0	—	—	
(目) 予備費	2,017,000	△ 2,017,000	0	—	—	
合計	227,182,000	2,532,000	229,714,000	227,180,019	2,533,981	

III　昭和59年度調査概要

本年は14ヶ所の遺跡の本調査，確認調査を実施した。

市原市内における先土器時代の遺跡はまだ少ない。能満上細工多遺跡において，フレイクが若干出土したにすぎないが，貴重な発見である。今後も先土器時代の遺跡確認は鋭意努力する必要がある。

縄文時代に関しては落し穴が能満上細工多・上大堀，西山，新井花和田，萩ノ原北遺跡から検出されている。炉穴は新井花和田，椎津中林遺跡から検出されている。ここで注目すべきは新井花和田遺跡では早期(田戸下層式土器)と思われる竪穴住居跡が6軒検出されたことである該期の集落跡として貴重な一例になるであろう。集落関係では他に上大堀遺跡から中期（加曽利E式土器)の竪穴住居跡が2軒検出されている。

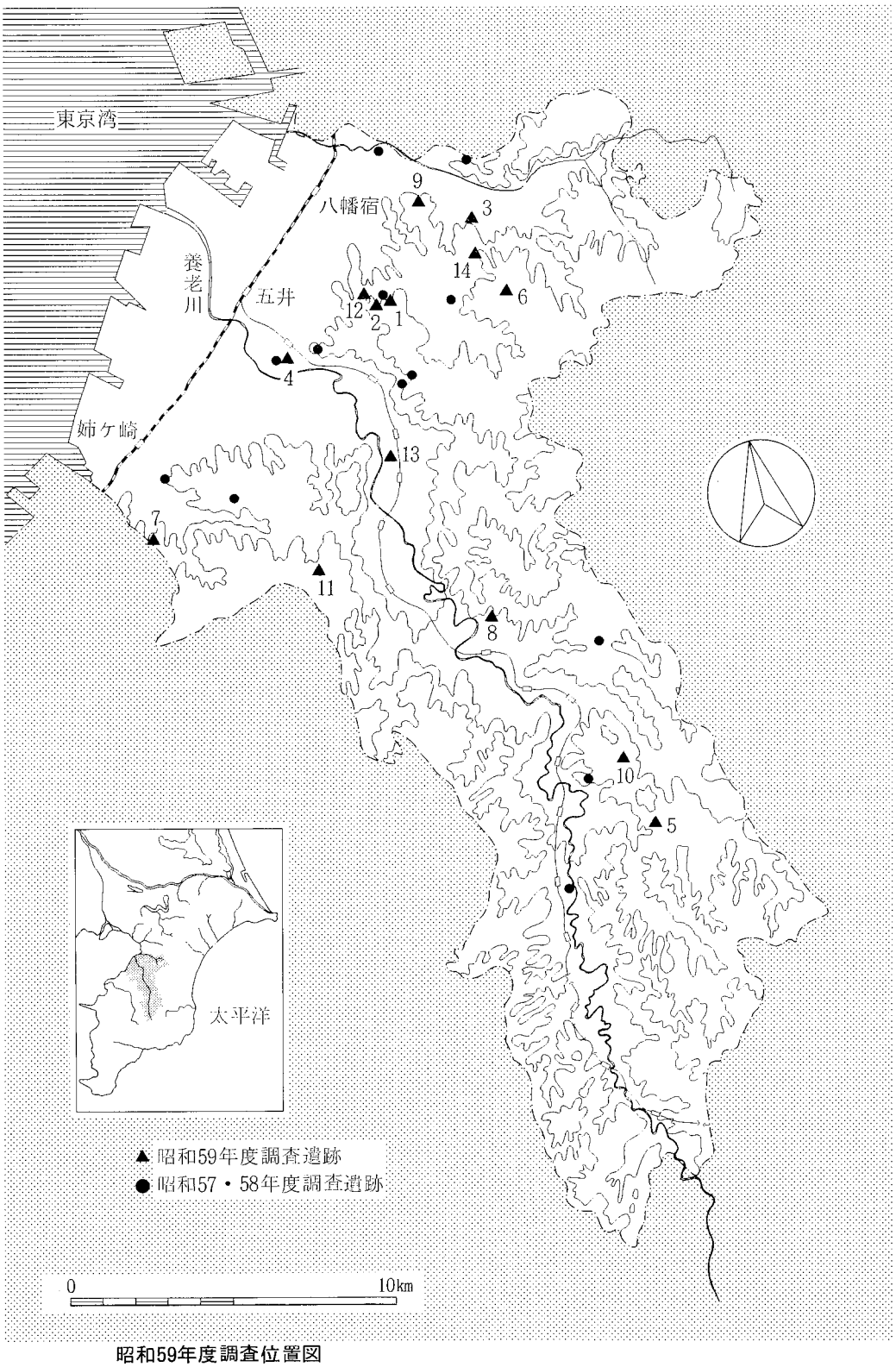
弥生時代に関しては中期(宮ノ台式土器)における集落と葬制を考える上に大きな成果をもたらせた。西山遺跡においては環濠集落の一部が，山田大宮遺跡においては方形周溝墓群がそれぞれ検出された。

古墳時代の集落は西山遺跡において，五領～鬼高期の竪穴住居跡が24軒，下ヶ谷台遺跡においては6軒の竪穴住居跡が検出されている。いずれも道路幅の調査であるが，規模の大きな集落である事が予想される。古墳の調査は大厩浅間様古墳の1例であるが，径45mの大形円墳で，主体部は3基検出された。一番大きな主体部（木棺，全長は10.7m,幅0.8m）からは珠文鏡，石釧，大形の管玉等が出土した。当地域における前期古墳の代表的な例になるであろう。

奈良・平安時代に関しても興味ある事例が2つある。能満上細工多，西山遺跡ともに区画施設（能満上細工多遺跡は溝，西山遺跡は柵列）があり，門も設けられており，中に掘立柱建物がある。両者ともに区画施設の規模が不明であるのが悔やまれる。集落跡としては沢，下ヶ谷台遺跡の調査があるが，いずれも小規模なものである。その他に永田，不入窯の保存区画確定のための確認調査が実施され，すくなからずの成果をあげた。

中・近世では椎津中林遺跡の「鎌倉街道」，村上城跡の一部，新井花和田遺跡における三山塚が調査された。

本年度の特徴としては，千草山，下鈴野遺跡における大規模な確認調査の実施である。



昭和59年度調査位置図

1：能満上細工多遺跡　2：上大堀遺跡　3：西山遺跡　4：村上城跡（上総国府推定地）
5：花和田遺跡　6：下ケ谷台遺跡　7：椎津中林遺跡　8：沢遺跡　9：浅間様古墳
10：永田・不入窯跡　11：萩ノ原北遺跡　12：千草山遺跡　13：山田大宮遺跡
14：下鈴野遺跡

1　能満上細工多遺跡（確認・本調査）

事 業 名　市道１１４号線改良工事に伴う埋蔵文化財調査

所 在 地　市原市能満1574－18他（確認調査）・同2038－１他（本調査）

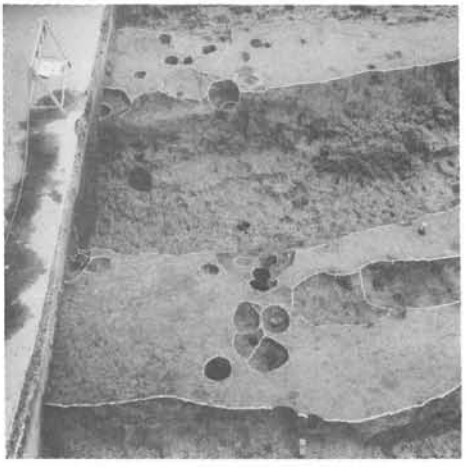
調査面積　9,000m²のうち900m²（確認調査）・1,000m²（本調査）

調査期間　昭和59年４月９日～６月30日（確認調査）・８月１日～11月16日（本調査）

調査概要　能満上細工多遺跡[注1]の調査は，市庁舎の東方２kmの市原市能満地先で市道 114号線の改良工事に先立って実施した遺構確認調査と，その結果に基づく一部の本調査である。市道 114号線改良工事に伴う埋蔵文化財調査は，昭和57・58年度に県道五井本納線との交叉点付近から市立能満霊園入口までの調査を市原市社会教育課と当センターが行っており[注2]，今回の調査は前回に引続き能満霊園入口から県立市原緑高校グラウンド脇までの南北 640mにわたって現道の両側で実施したものである。調査地は，八幡宿で東京湾に注ぐ小河川新田川上流の支谷に挟まれた標高35～42mの南から北に伸びる洪積台地平坦面で，台地の北端近くには府中日吉神社の鎮座する能満の現集落が存在している。

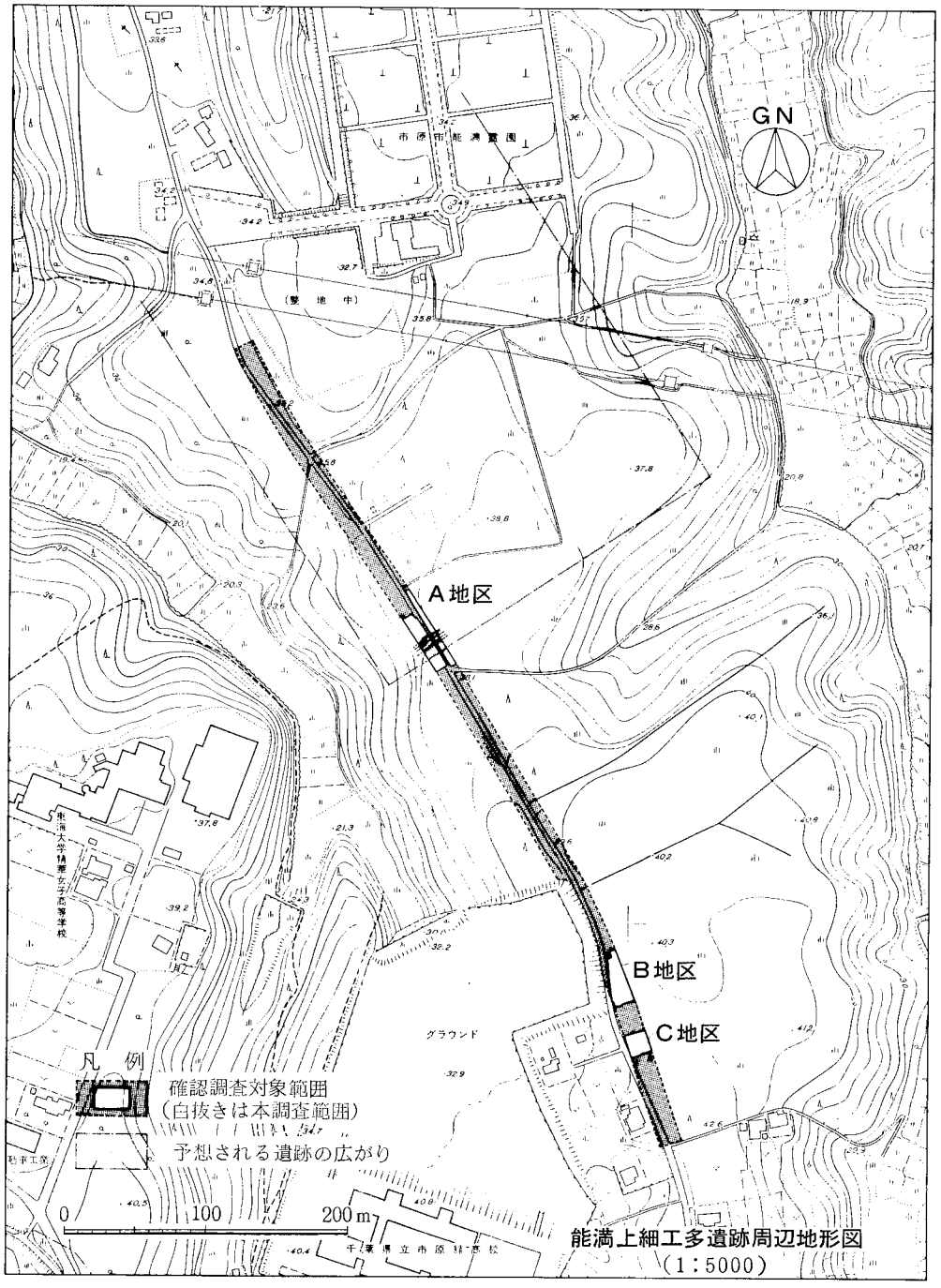
上細工多遺跡Ａ地区西半部全景（北より）

確認調査は現道に平行する幅２mのトレンチを現道の両側に設定して行い，その結果，調査地北端から南へ 250m付近で現道に直交する古代の溝跡を３条検出した（Ａ地区）。これらの溝は立地や規模・形状からみて北側に存在した何らかの重要な施設の南辺を画していたものと判断されたが，対応する北辺の区画施設らしき遺構は調査範囲内では検出されず，溝跡に関連しそうな建物遺構もトレンチ内では検出できなかった。一方，調査地の南端に近い県立市原緑高校グラウンド脇で縄文地代の陥し穴１基と先土器時代の遺物包含層を２個所検出した（Ｂ・Ｃ地区）。



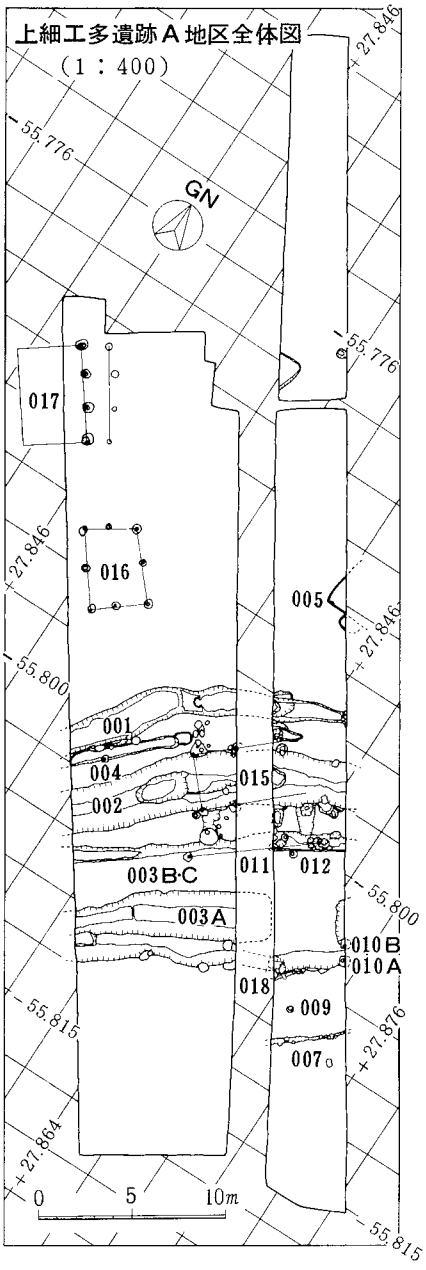
上細工多遺跡Ａ地区ＳＢ015西半部（北より）

以上の確認調査の結果に基づき，A・B・C地区の3個所で本調査を実施した。A地区では溝を中心に南北50mにわたって現道の両側と現道下の西半分も併せて調査し，溝跡の性格を追究した。その結果，溝跡は4条あり（北から 001・ 004・ 002・ 003），南端の 003には2回



能満上細工多遺跡周辺地形図
（1：5000）

以上の掘り直しが認められた。また，これらの溝跡は現道付近でとぎれたり，浅くなったり，やや北に湾曲したりして，各時期ともにこの部分に出入口のあったことが推定された。さらにこの開口部に門や目隠し塀と推定される複数の掘立柱遺構が検出され，溝跡の北側（内側）で，開口部の西側に掘立柱建物２棟（016・017）を，東側で竪穴住居跡の隅部分（005）を検出した。これらの古代の遺構の方位の振れは，座標北に近いものと北で大きく西に振れるものがあり，後者は台地の走向にほぼ一致している。前者に属するものは竪穴住居005のみで，ほかは全て後者に属する。さらに後者の一群は40度前後の振れを示すもの（004・007・011・015・016・017）と30度前後の振れを示すものに分れ，40度前後の振れを示すものが先行するようである。



四条の溝のうち001に切られた004が幅 0.6m・深0.2mと最も小さく，西壁から 5.4mの所で終わる。対する東側の溝は調査区内には認められない。001は幅２m・深さ１m弱を測るが，東側へ向かって浅く狭ばまり，東壁ぎわで終わっている可能性が高い。002は幅 2.5～3.0m・深さ 1.0mを測り，他の溝と比べると底面の幅が狭い。

003は，現状では幅6.0～ 7.5mで深さも一定しないが，これは掘り直しの結果で，当初は幅 3.0m前後・深さ1.3m前後で，現道の東側に開口部をもっていた（A）。その後拡幅して掘り直し（B），さらに北寄りで掘り直している（C）。003Cの北肩寄の埋土上層から 002南肩にかけて幅２m前後の土塁条の積土が認められ，その残骸と推定される高まりが発掘区の東方に伸びている。この土塁状の積土の南に接して中世の遺物を含む溝が掘られれている。この土塁状の積土と溝は古代の遺構とは直接のつながりはなく，台地北端の中世城郭跡にかかわるものであろう。この 003は完全に埋りきらず，台地斜面寄りの西壁ぎわの地表面に明瞭な窪みをとどめている。これらの溝は，004を除き，埋土の途中や上面が硬化し，通路になっていた時期のあったことがわかる。埋土中からの遺物の出土は概して少なく，003A や 004では特に少

ない。 002からは比較的形をとどめる土師器杯形土器が出土し，9世紀後半以降に埋没したことがわかる。 001 や003からは9世紀代を中心とする土師器・須恵器片が出土している。 002ら鉄鏃が，002と003から鉄滓が出土している。また， 003の埋土に掘り込まれたピットから一連の馬歯が出土し，中世の溝からは宝篋印塔笠石と内耳鍋・常滑片が出土している。

掘立柱建物 016は2×2間の床束柱をもたない小規模な南北棟建物で，平面形態はゆがみが強く，柱間寸法も不揃いで，通りも悪い。平均値を求めると，桁行2.89m・梁行4.11mで，棟方向はN40°-15′-Wを示す。017は桁行3間5.15 mの南北棟建物の東側柱列と推定される。これも柱間寸法が不揃いで通りも悪い。柱は抜取られ，埋土には粘土を含み， 016より新しい。い。 017の東側 1.5～ 1.2mに3間分 5.1mの小柱穴列が存在するが，建物と構造的に連結するものか，独立した目隠し塀か即断しかねる。これら2棟の小規模な掘立柱建物は，開口部との位置関係からみて，宿直屋(とのいや)的な役割をはたしていたもであろう。

015は現道下で002をまたぐ位置に検出された南北1間 3.05m・東西1間 1.86mの掘立柱遺構で， 002によって破壊されている。位置からみて橋脚か門のいずれかと推定される。門である場合，棟通りの柱穴が002に破壊された四脚門とするには間口が狭すぎ，北東隅柱穴を検出できなかったが，八脚門の西脇間部分と考えるのが自然であろう。南側柱列の方位はE42°- Sである。この015と004・016は方位や埋土の状態からみて同時期の遺構である可能性が高い。

011は目隠し塀と推定される東西3間分7mの掘立柱列で，方位はE-39°25′-Sを示す。03Cに切られている。003の北肩寄りには他に組み合せの不明な柱穴が存在する。007は板塀の布掘形の底部付近の残存したものと思われ，方位はE-37°45′-Sを示す。010A ・Bは003Bの埋土に掘られた掘立柱 柱穴で， 掘形の形態は 整い壁も垂直に掘られ ており，明瞭な柱痕跡 と抜取り穴が認められ る。発掘区の東側に存在した建物の隅柱であろう。

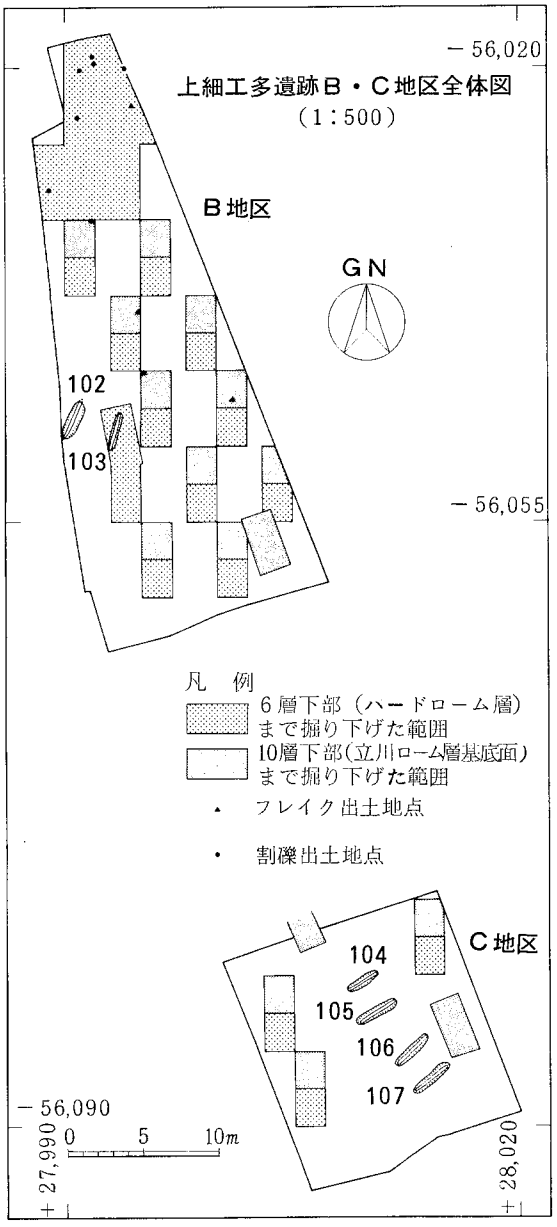
上細工多遺跡B・C地区全景（南より、手前がC地区）

018も003B埋土に掘られた柱穴で， 010と組み合って棟門風の門を想定できる位置だが，掘形の形状や埋土は010とは異なる。009も

明瞭な柱痕跡をとどめる柱穴だが，組み合う柱穴は不明である。

以上のように，調査範囲の制約から不明な点が多いが，調査地の北側に九世紀代を中心に存在した施設の南辺区画溝と門口部の存在が明らかになった。この施設の規模は，東西については地形的制約から2町を超えず，南北については今回の調査対象地の北まで拡がっていたとすれば 2.5 町以上になる。また,南辺門口部が中央にこないで西隅近くに寄っているのは，調査地の南に東から浅い谷が入り込んで平坦面が台地の西寄りに狭まっているためであろう。そして，この門口部に取り付く現道が古代に遡る可能性が出てきた点は，今後の古道復原に役立つであろう。最後にこの遺跡の性格は，遺物の少ない点，溝の形状や規模，門や宿直屋と推定される建物の存在からある種の官衙跡であったことは推定できるが，それ以上の性格の特定，規模や内部構造の解明，周辺の寺院・官衙跡群との関係は今後に残された課題である。これまで全く知られていなかった当遺跡の出現は，市原から山田橋に至る市原台地や能満台地の古代における重要性をより一層高めることになったといえるであろう

B・C地区では，縄文時代の落し穴をB地区で2基,C地区で4基検出した。また，B地区北端付近で先土器時代石器包含層を上下2層で捉えたが，フレイクやチップが若干出土したのみである。（宮本敬一）



(注1) これまで当遺跡を下中貝遺跡と呼称してきたが，今回の調査地は字下中貝までは及んでいないため，中心部の小字名を採って上細工多遺跡に変更した。また，今回本調査を実施したB・C地区はA地区とは別の地点で，時代や性格も異なる別個の遺跡であるから，所在地の小字名を採って「能満上新(かみにいぜき)関遺跡」と呼ぶのが適当である。ここでは上細工多遺跡のB・C地区としたが，今年度刊行の本報告において名称変更する予定である。

(注2)「能満番面台遺跡」（『市原市文化財センター年報　昭和57，58年度』・1985）

2 上大堀遺跡

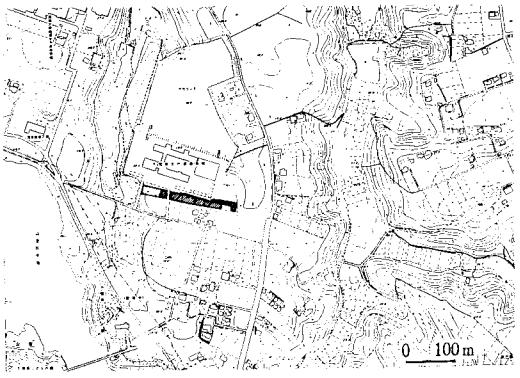
事業名　都市計画道路君塚・小田部線建設に伴う埋蔵文化財調査

所在地　市原市能満字上大堀 1,531－171 他

調査期間　昭和59年4月25日～5月31日（確認調査）・昭和59年7月20日～9月29日（本調査）

調査面積　3,900m²のうち 390m²（確認調査）・ 3,000m²（本調査）

調査概要　国鉄内房線の五井駅と八幡宿駅との間にある君塚から，国分寺台住宅造成地・山倉ダム（千葉県子供の国）の脇を通り小田部に至る都市計画道路君塚・小田部線建設に先行する埋蔵文化財調査として，第1図の如く，県立市原緑高校の南側部において発掘調査を実施した。



第1図　上大堀遺跡の位置と周辺地形図

付近の周知の遺跡としては，当地域の東方1kmに能満分区貝塚，東南 1.5kmに小田部吹上遺跡，南南西1kmに山倉貝塚，南西 1.5kmに西広貝塚がある。

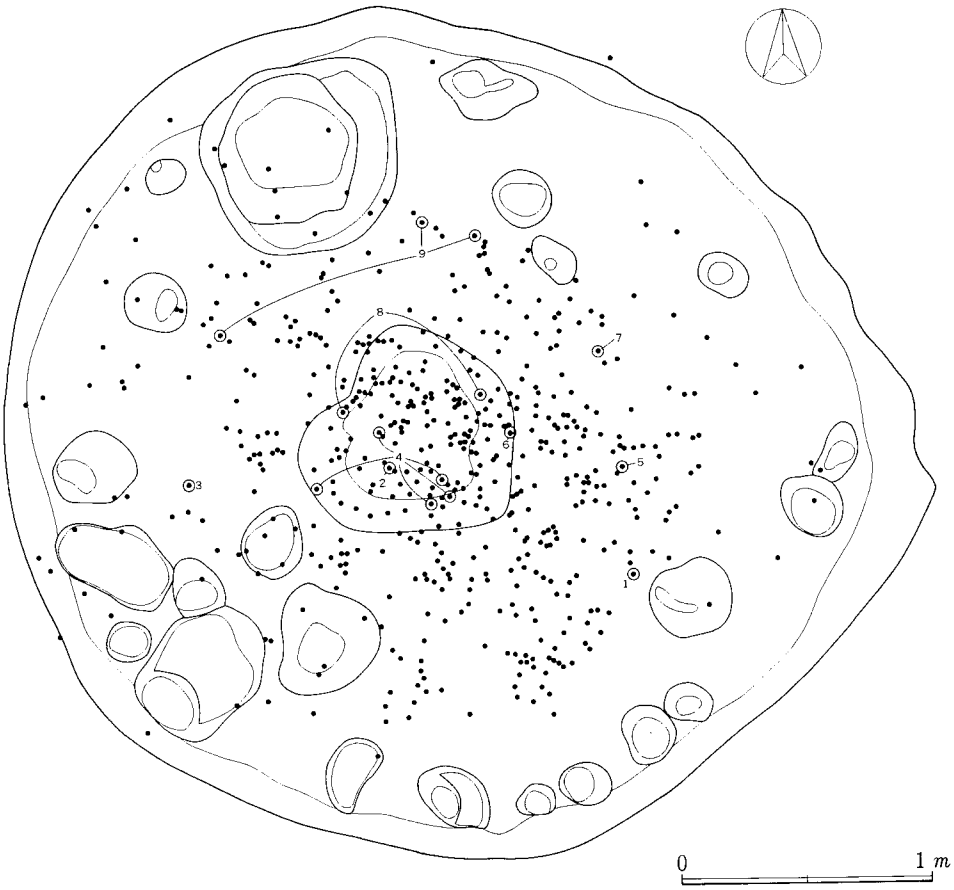
確認調査の結果，調査区中央部付近の2ヶ所において，竪穴住居跡と思われる落ち込みを確認したが，西側端部では，遺構の存在が確認されず，本調査は，住居跡を中心として主に東側部分を対象として行なった。その結果，遺構として竪穴住居跡2軒，落し穴跡6基，土壙状遺構6基，倒木痕跡6ヶ所及び，性格不明のピット多数を検出し，遺物面では，縄文時代中期加曽利E式土器及び石器などが出土している。

以下，検出された遺構・遺物等について，数例を図示し若干の説明を加えることにしたい。

住居跡は前述の如く，2ヶ所計2軒検出されているが，内1軒は一部が市原緑高校正門に通ずる道路下となるため,完掘されたNo.1住居跡と落し穴跡を取り挙げることとする(2・3図)。

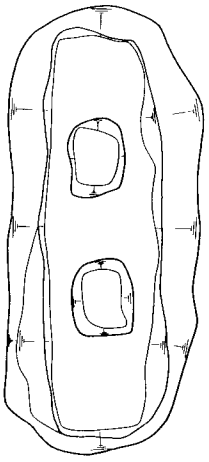
No.1住居跡は，北側部に貯蔵用と思われる円形のピットを設け，壁直下には壁柱穴を配したほゞ円形を呈する住居で，炉が中央部に位置している。住居跡内を充満する土壌中からは，図中ドットで示した様に，土器片が多数，住居跡中央部に集中する状態で出土している。これらの土器は第4図に見る如く，中期加曽利E式期に位置付けられるものである。又，第4図中9とした器台状土器は，住居跡床面直上から3地点に分れて出土したものであるが，接合の結果ほゞ完形品となったものである。

落し穴跡は6基が検出されている。いずれも掘り込み面での平面形状は縦長な長方形を主と



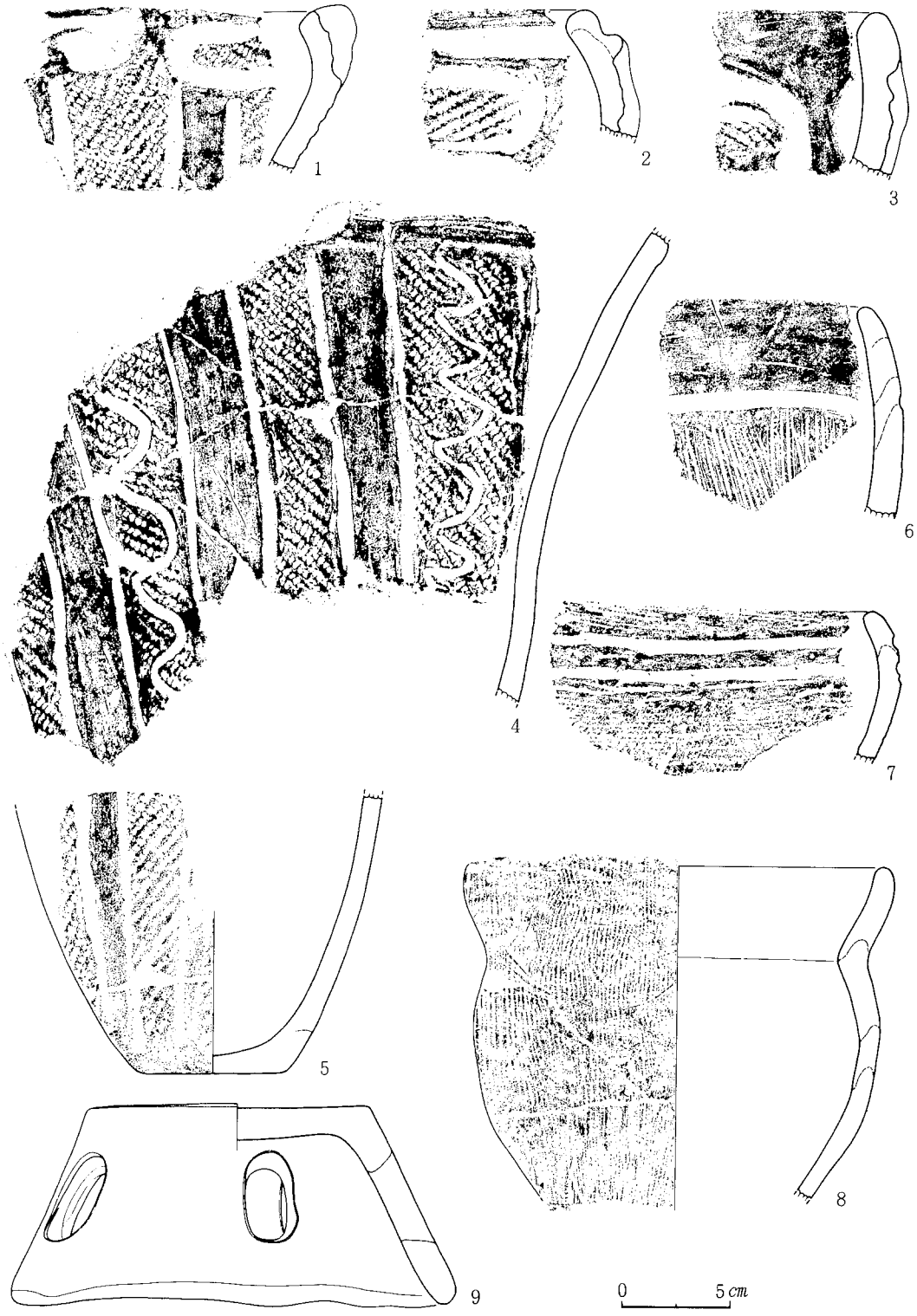
第2図　上大堀遺跡第1号住居跡遺物出土状態図

するが，底面部の相違から幾つかのタイプがある。1：溝状となるもの。2：掘り込み面の平面形と同様に底面形も縦長な長方形を呈するもの，3：2の底面に方形状の小ピットを2ヶ設けるもの（3図）等である。時期的には，当遺構に伴出する遺物が少量であるため即断は出来ない。当落し穴に狩猟・捕獲用といった性格を与えるならば，住居と近接した状況で検出された点を考慮すると，住居の構築と時を一にすることは疑問である。しかし，居住区に獣類等の侵入を防止する事を目的とした施設と解するならば，住居跡と同一時期の所産として把握することも可能である。



第3図　落し穴状遺構図

調査区内から検出された住居跡は2軒のみであるが，調査区の北及び南側には台地の平坦な広がりが見られることから，当台地上に加曽利E式期集落跡の存在が予想される。又，前述した小田部吹上遺跡，山倉貝塚からも加曽利E式期の住居跡・小竪穴が多く発見されており，加曽利E式期において，本地域一帯が広く生活の舞台として活用されていたであろう事が窺われるものである。（米田耕之助）



第4図　上大堀遺跡第1号住居跡出土土器実測図

3 西山遺跡（にしやま）

事業名　都市計画道路・草刈西広線建設に伴う埋蔵文化財調査（2）

所在地　市原市潤井戸字西山1297他

調査期間　昭和59年9月1日～9月26日（確認調査）

昭和59年11月12日～昭和60年3月25日（本調査）

調査面積　4,500㎡のうち450㎡（確認調査）　2,770㎡（本調査）

調査概要　遺跡は，千葉・市原の市境付近を流れる村田川中流域の左岸，流域に沿って形成された沖積地及び支谷に囲まれた標高15m，比高1m弱の舌状に張り出した，低位台地上に位置し，調査の対象地域は，台地の先端に近い東側縁辺部分にあたる。

調査は，村田川右岸に建設が進む，千葉・市原ニュータウンの大規模開発に関連した，都市計画道路草刈西広線の工事に先立って行なわれた。当初の調査面積は，北端の隅切り（横断歩道）を含め，4,500㎡の確認調査を行った結果，北側の2,770㎡が本調査の対象となった。

遺構は，調査区域の南端に入り込む，浅い埋没谷の北側台地上に集中しており，各時期の集落，施設等の中心は北西部の台地中心と思われる。（第1図）

検出した遺構は，次の通りである。

縄文時代　落と穴状遺構7基（底部に柱状痕のあるもの計4基）

弥生時代　竪穴式住居跡1軒，環壕の東側部分（断面は有段V字形，住居跡は壕外）

古墳時代　竪穴式住居跡24軒

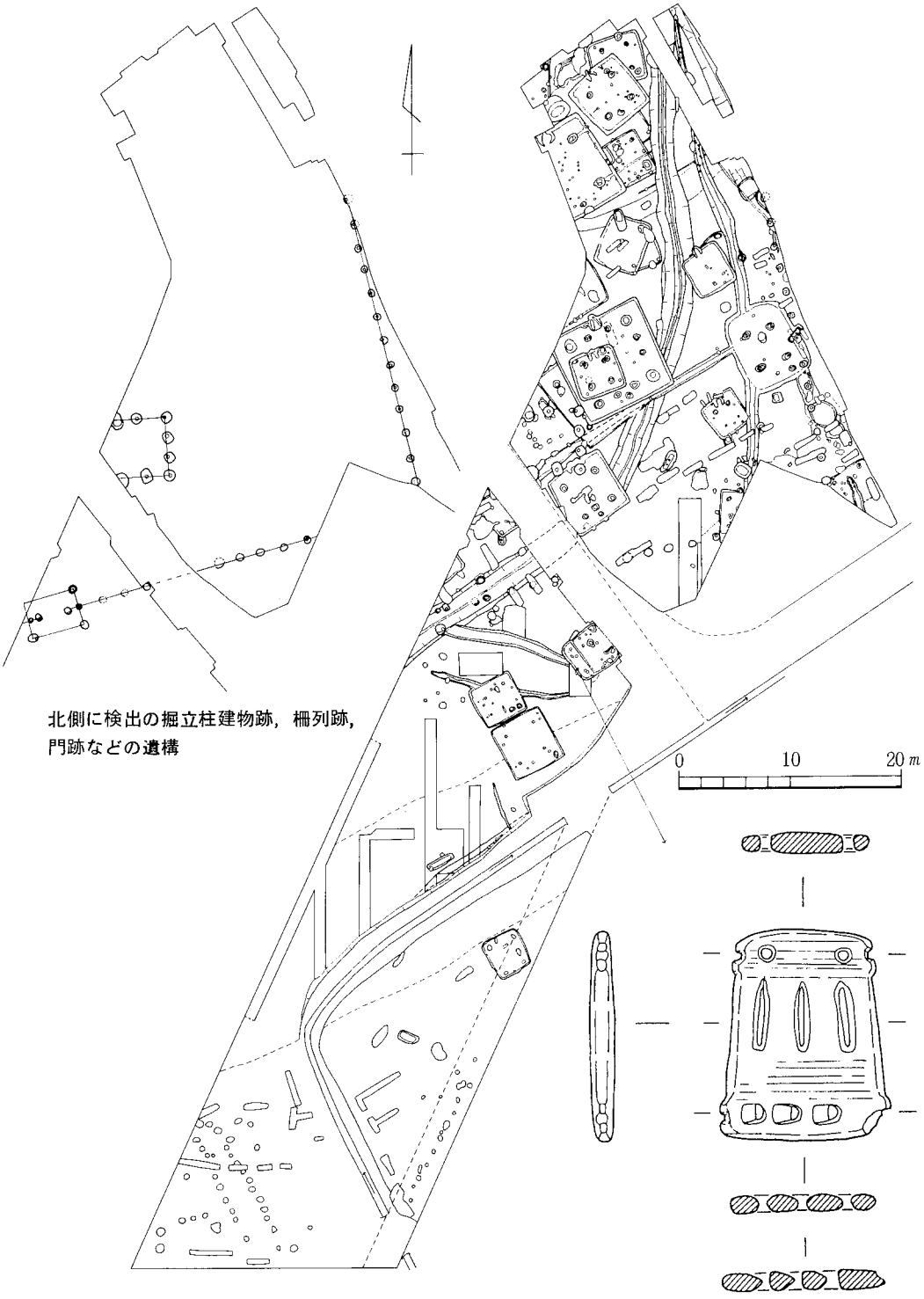
歴史時代　竪穴式住居跡1軒，掘立柱建物跡1（3×3間），門跡1（四脚門），柵列跡（南・東側部分の一部）（第一図の左上）

この他，時期不明の遺構は，竪穴式住居状遺構2，溝7条，路3条，土壙7基を検出した。

遺物については，縄文時代は玦状耳飾り1点の他皆無に等しい。弥生時代は，宮ノ台式に比定の土器，石斧など。古墳時代では，五領式から鬼高式に比定される土器を，又，歴史時代では，住居跡から真間式に比定の土器をそれぞれ検出した。掘立，柵列等の遺構からは，直接的に同伴するとみられる遺物は皆無に等しい。

土器以外では，金属製産に関連した石製の鉄床，鉱石を素材とする鉄滓の他，鉈1点を検出し，石製品では，蛇紋岩系蠟石製の垂飾品（第1図－右下）など，いずれも古墳時代の前半を主とした遺構から出土している。

報告書刊行は昭和61年3月31日に予定されている。（鈴木英啓）



K－21号住居址出土の蛇紋岩系蝋石製垂飾品(1：1)

西山遺跡検出遺構全測図

4　村上（むらかみ）城跡（上総国府推定地）

事業名　国府小学校プール建設に伴う埋蔵文化財調査

所在地　市原市村上1402－1

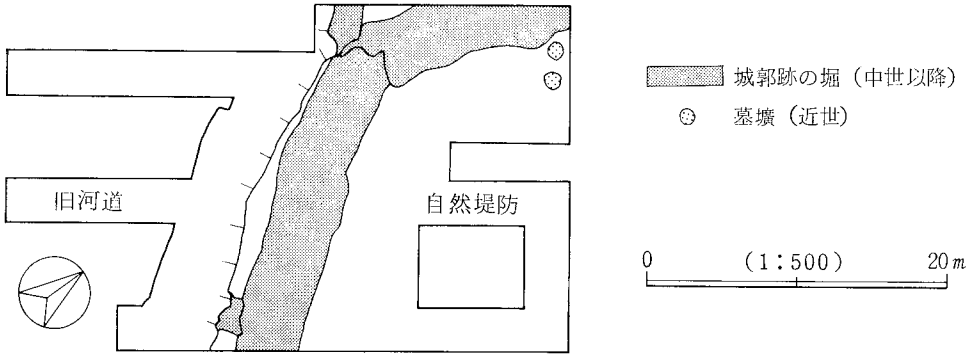
調査期間　昭和59年4月2日～昭和59年5月12日

調査面積　500m²のうち50m²（確認調査）　500m²（本調査）

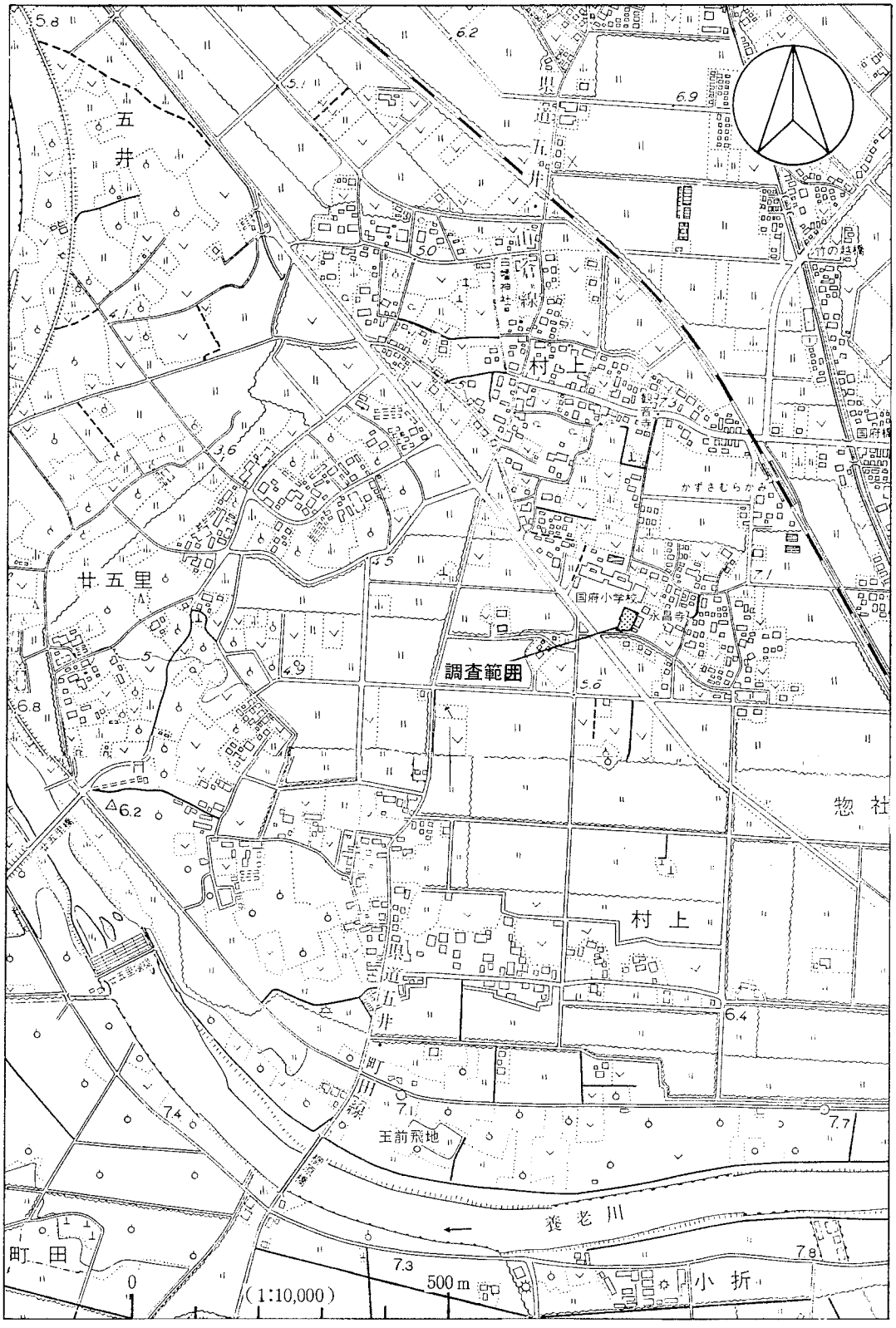
調査概要　本遺跡は，養老川最下流域左岸にあり，養老川沖積地と海岸平野に挟まれた洪積世台地直下の角地に位置する自然堤防上に立地している。現水田面との比高差は最大 1.5m程である。周囲は養老川に特徴的なメアンダーが，海岸平野に至ってさらに顕著になっており，旧河道の跡と自然堤防，さらに砂堆などによって複雑な地形を呈している。

本調査地域は上総国府の有力な推定地の内にあるが，昭和58年に今回の調査地点から北西に約100m離れた地区を当センターが調査した際には，それを裏付ける資料は得られず，今回の調査においても布目瓦が5点出土したのみであった。また一方，本遺跡の立地する自然堤防は，16世紀以降は城であった事が知られており，今回の調査ではこの城のものと思われる堀跡の一部と15世紀末を最古とする中・近世の陶器が検出され，これを裏付けている。調査区域は北東－南西方向に長い長方形を呈し，北側に自然堤防が台地状に検出され，南半はこれとの比高差が1.4mある旧河道の跡であった。遺構は，自然堤防の端部に沿って堀跡が南東～北西方向に走っており，調査区域内で西行する堀と北行する堀に分岐している。それぞれの堀の底部は完通しておらず土手によって区分されているため3条として扱った。また，近世の円形土葬墓が2基検出されている。遺物は堀及び旧河道から，中・近世の陶器・磁器・銅製香炉・五輪塔・宝篋印塔・板碑が，土葬墓から貨幣，土師質杯形土器が出土している。

報告書刊行は昭和61年3月31日に予定されている。（山口直樹）



村上城跡調査区全体図



村上城跡調査位置図

5 新井花和田遺跡

事業名　浄水場建設に伴う埋蔵文化財調査

所在地　市原市新井字花和田 733

調査期間　昭和59年4月9日～10月2日

調査面積　2,000㎡　塚1基（本調査）

調査概要　遺跡は，養老川上流域の右岸，同支流の古敷谷川及び平蔵川に挟まれた市原南部山地の一角にあり，国鉄の五井駅を起点とする私鉄・小湊鉄道の高滝駅からE－12°－Wの方向，約2.25kmに位置する。標高は 133mを測る尾根状台地南端寄りに，新井地区保有の供養塚（三山塚）が存在し，その頂部には，標高138.6mを表記する4等三角点が置かれている。

近年，増加の一途を辿る人口に対処する上水の確保策として，高滝駅の東，養老及び古敷谷川の合流地点を中心に「高滝ダム」の建設が進行しつつある。それに伴う「市営水道浄水場」の建設に先立ち，第一次分として，塚を中心に 2,000㎡を調査した。

三山塚は，基部一辺の長さは21mの正方形，高さは中心部分で 5.2mを測り，市内有数の規模をもつ。基部南面の中央部には，両端に溝（路）を伴うテラス状の盛土があり，平面形は，前方後方墳に類似した形状を呈す。関連施設としては，周溝及び柱穴を伴う布掘りの溝などを検出した。

塚に伴う遺物は，坏形土器（カワラケ）16個体，寛永通宝を主とする古銭115枚を検出した。

土器の一部は，四方のコーナーから埋納状態で出土しており，造営に際して行なわれたとみられる神事の一端を伺うことができる。

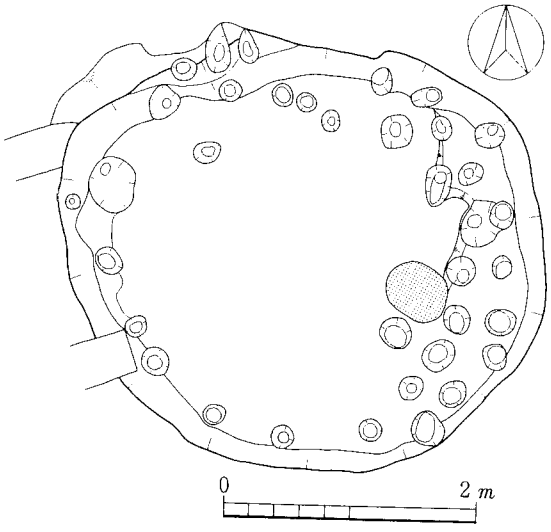
塚の周辺部は，その造営時における地形整形（ローム上位面の削除など）が行なわれているため，塚以前の遺構は，遺存状態が悪く，炭窯や縄文時代の炉穴などは焼底部を残すのみである。周辺遺構は，炭窯と付属施設各1基，方形周溝状遺構1基，土壙12基，溝1条であった。

塚周辺の地形が，大巾に改変されているのに対し，塚の下層部分については，ロームを基壇状に削り出しているため，比較的良好な状態を残している。遺構は，縄文時代早期を主とする住居跡6軒を検出した。又，調査区域の南東に入り込む埋没谷の堆積土中からは，約 4,500点の土器片の他，多量の礫が出土している。これら，遺構以外からの出土遺物は，縄文時代の早期から前期前半に比定される。（鈴木英啓）

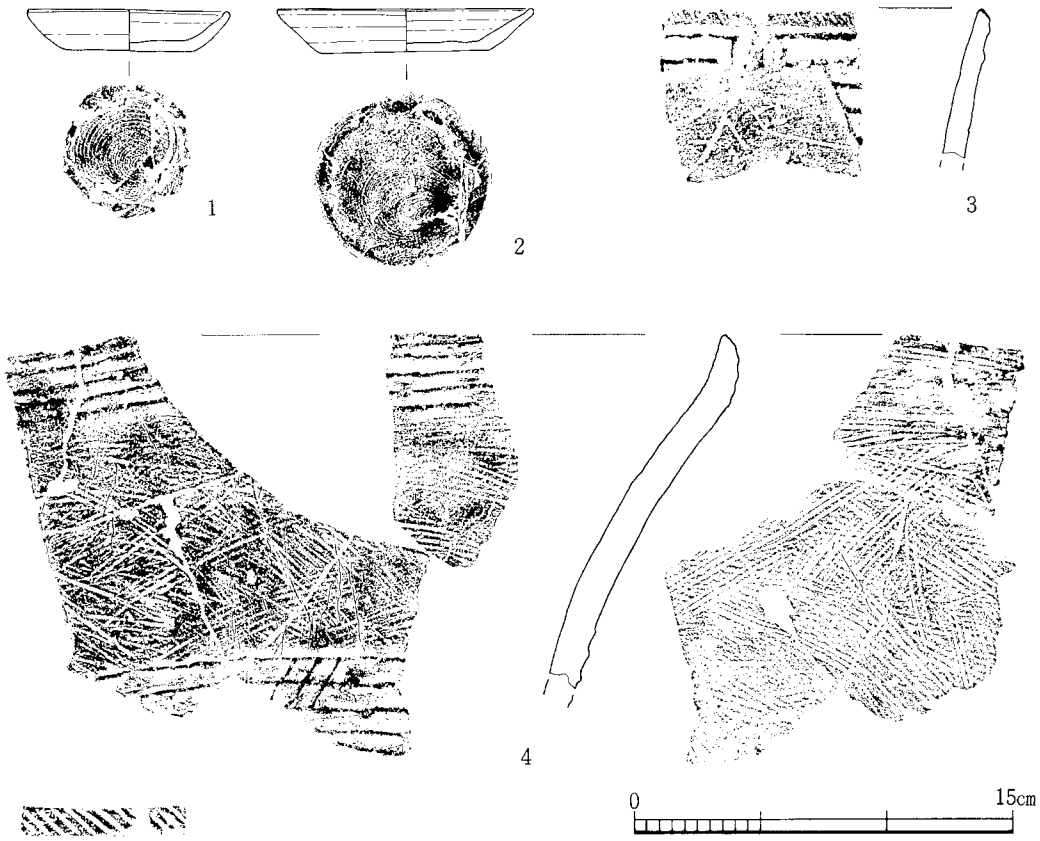
第１図　三山塚測量図と遺構全測図

縄文時代の遺構については，未整理のため，詳細な成果は提示できないが，検出した遺構は次の如くである。

住居跡６軒（炉を伴うもの４軒）
住居跡状遺構３基（楕円形２，方形１）
炉穴17基（１基を除き焼底部のみ遺存）
落と穴状遺構６基（底部に柱状痕のあるもの３基）
土壙12基。水場痕（推定）１ヶ所。



第２図　第６号住居跡実測図
（出土土器は第３図ー４）



1.2 坏形土器　塚の基部コーナーから出土。1は,器高1.7cm,口径 8.2cm。2は器高1.8cm，口径10.3cmを測る。1が逆さに2と合せた状態で出土している。

3　鉢形土器，東側斜面から出土。口縁に斜行の刻み，胴部は口縁部と平行する2本の隆線に縦，斜，横位の隆線の組合せ分と沈線。内面は横位の貝殻条痕文が見られる。

4　深鉢形土器　口縁に5本，くびれた部分に4本の平行隆線と部分的な格子目状文。他は，内外面共に貝殻条痕文が見られる。

5　深鉢形土器　口唇に刻み，口縁以下に貝殻腹縁文及び横位の貝殻条痕文。
内面はナデが行われている。

6　尖底土器　外面に貝殻条痕文。

第3図　花和田遺跡出土遺物実測図

6 下ヶ谷台遺跡

事業名　大作地区団体営農道整備に伴う埋蔵文化財調査

所在地　市原市大作字下ヶ谷台 101～31番地他

調査期間　昭和59年11月1日～11月30日（確認調査）

昭和60年2月1日～3月31日（本調査）

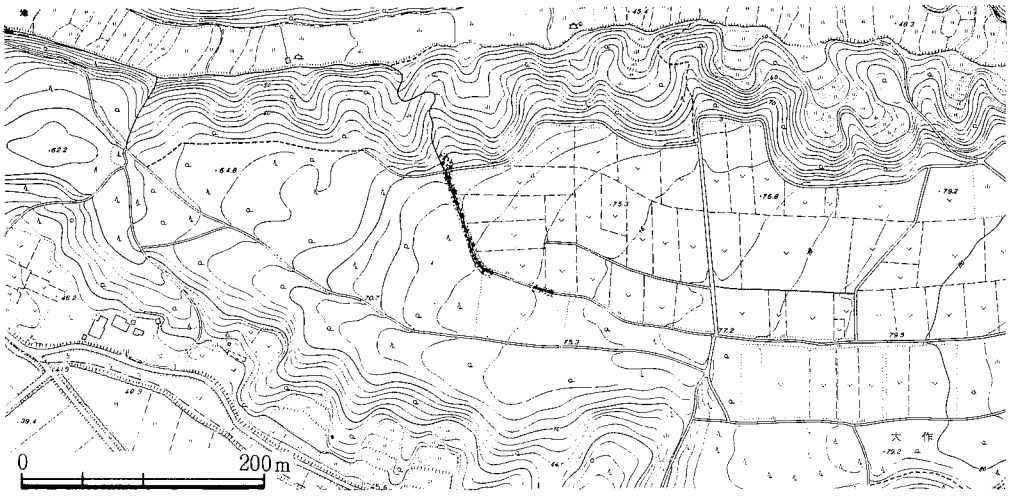
調査面積　2,700㎡のうちの 270㎡（確認調査）・ 800㎡（本調査）

調査概要　下ヶ谷台遺跡は，上総と下総の国境を北流する村田川支流の神崎川上流域の小支谷に挟まれる台地上に在り，標高71～75m前後を測る。当該地域での埋蔵文化財の調査は，大規模な造成計画に伴って行なわれるている国分寺台地区や千原台地区に代表される遺跡の調査と比較すればわずかであり，当地域は空白地域とも言える。しかしながら今回の調査では，農道と言う限られたわずかな範囲であったが，当遺跡の所在する台地の歴史を解明する上で貴重な資料を多数得ることができた。

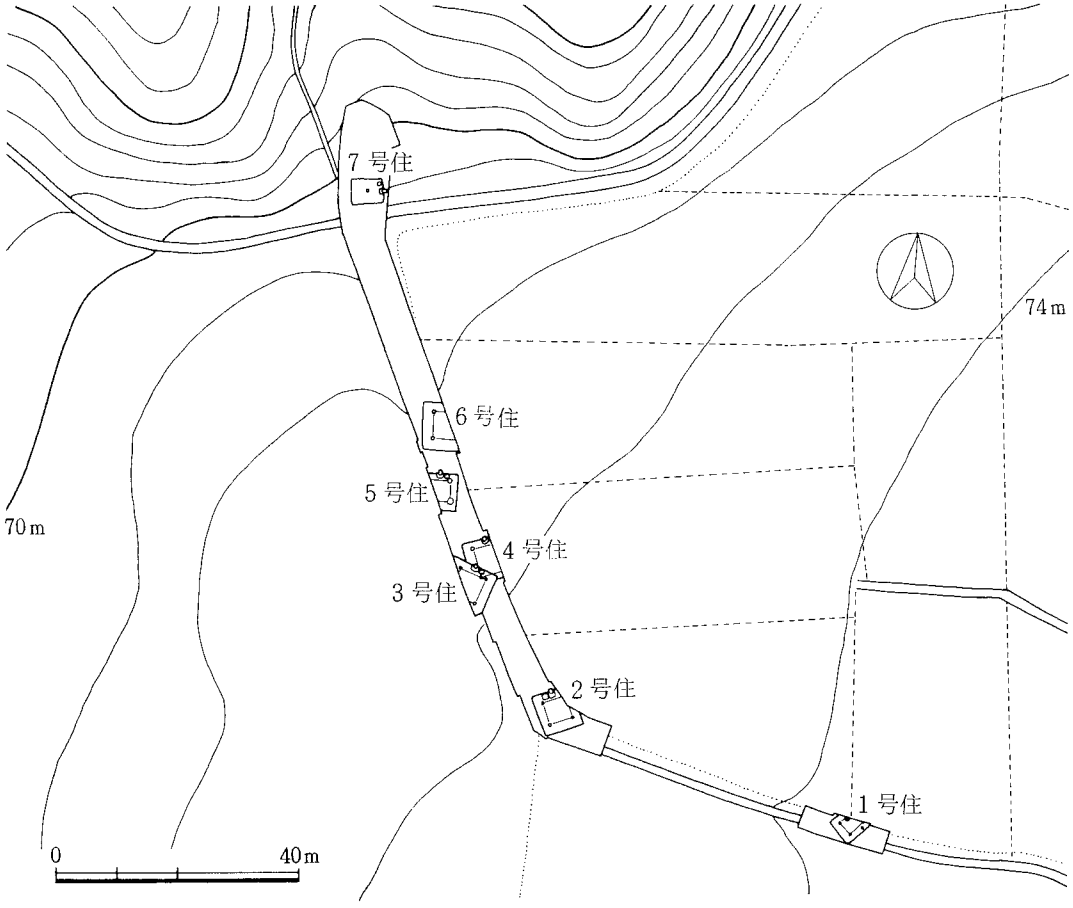
調査は確認→本調査と59年度事業として行い，調査範囲はく字型を呈し，現況は農道である。確認調査は，10mごとに2×4mを基本にグリットを設定して行い，状況に合せて2×2m・3×4mのグリットをそれぞれ21地点に設けた。調査の結果，中央部A地点・中央部より北側にB地点の本調査を行うことになった。

本調査の結果，五領期1軒，鬼高期5軒，奈良～平安期1軒の住居跡7軒と風倒木痕1ヶ所を検出した。五領期の住居跡はA地点より検出した1軒のみで，全体の⅔ほどの調査で，遺物は土師器器台・小型甕がほぼ完形で出土した他は，覆土中からの出土量も極めて少ない。鬼高期の5軒はB地点よりの検出で，2～6号住居跡である。5軒とも全掘できなかったが規模や時期をそれぞれ把握することができた。遺物はどの住居跡からも良好に出土し，特に3・6号住居跡からは良好で，3号跡からは須恵器高坏・大型甕・坏・土師器坏・甕・紡錘車3点・刀子1点を，6号跡からは土師器高坏・坏・甕を出土している。奈良～平安期とした7号住居跡は調査区の北端に在り，出土遺物も無く，時期を限定しうる資料を欠くものの，住居跡形態や煙道部が長くなるカマドの構造から当時期と考えている。

当台地の全体から見ればわずかな面積であるが，調査の結果，すくなくとも五領期・鬼高期2時期・奈良～平安期の4時期の遺構を検出し，当該地域の歴史を解明する上で重要な資料となろう。（浅利幸一）



下ケ谷台遺跡周辺地形図



下ケ谷台遺跡全体図

4号住居跡

3号住居跡

6号住居跡
遺物出土状況

7 椎津中林遺跡

事業名　市道111号線改良工事に伴う埋蔵文化財調査

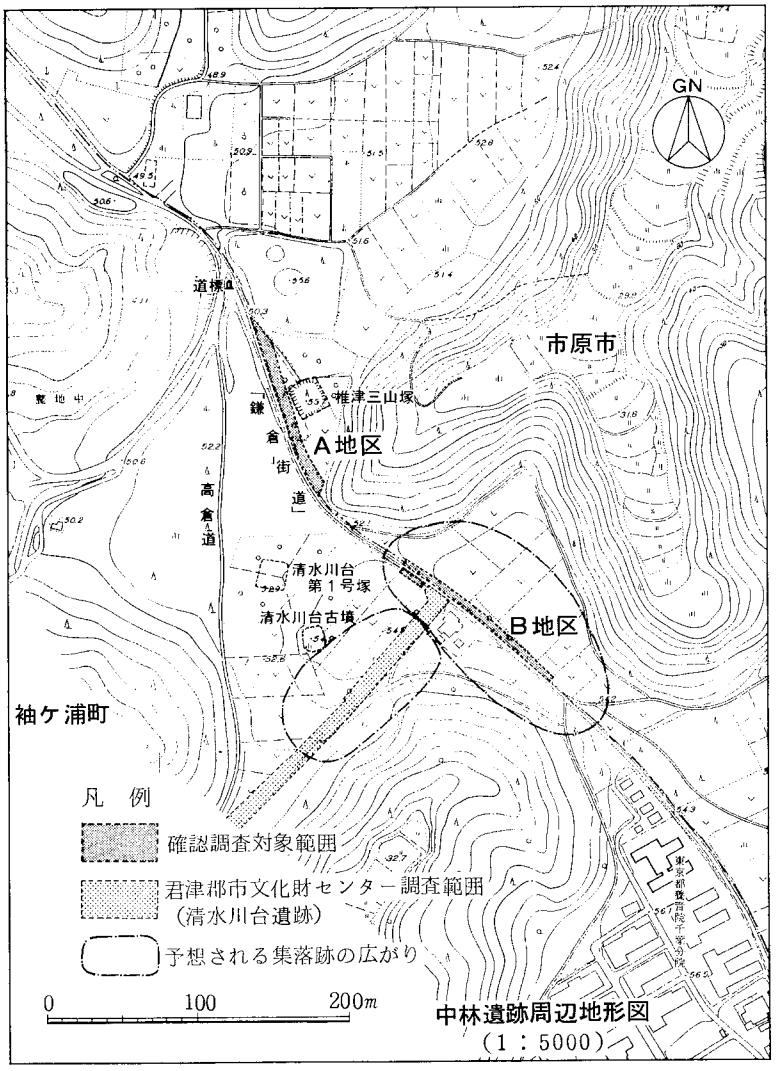
所在地　市原市椎津2196他

調査期間　昭和60年3月15日～3月30日

調査面積　1,486m²のうちの 240m²（確認調査）

調査概要　調査地は椎津川支流の開析谷と君津郡袖ヶ浦町浜宿に向って開く小開析谷に挟まれた標高50～54mの洪積台地平坦面で，市原市と袖ヶ浦町の境界をなす市道111号線の改良工事に先行して現道の両側で遺構の所在確認調査を実施したものである。対象地は南北315mあり，椎津川支谷の谷頭に接する所で南北に二分し，北側をA地区，南側をB地区と仮称した。調査は，2×4mのトレンチを6mの間隔で現道に平行するように設定し，一部に長さ2mの小トレンチを設けて遺構の有無を追究する方法をとった。

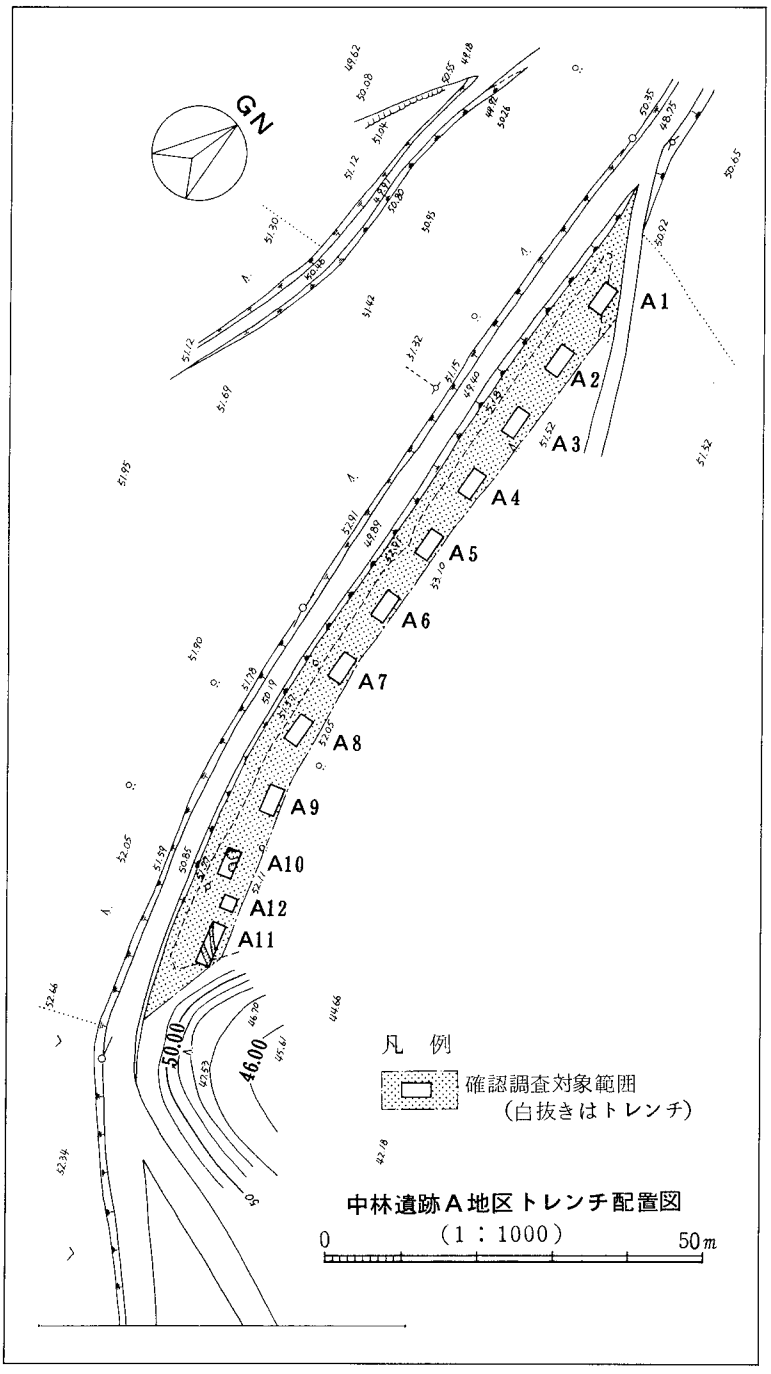
A地区では，現道に平行する溝状の道路跡（図示せず）と，南端のA11区で現道に斜行する溝を2条検出した。この溝は道路跡に先行するが，帰属年代を決めうるような遺物は出土しなかった。また，A10区で土壙状の落ち込みを検出したが，年代・性格は不明である。



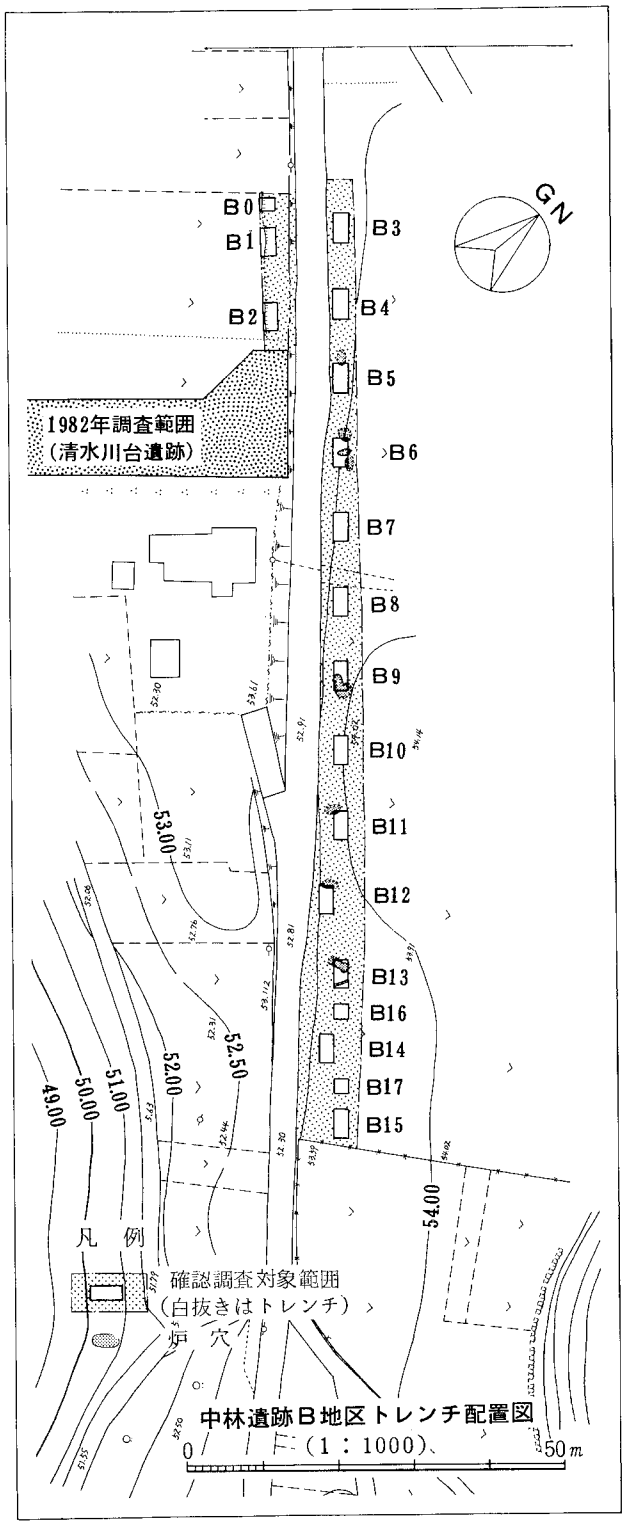
中林遺跡周辺地形図（1：5000）

A地区では他に顕著な遺構は認められず，B地区の集落跡はA地区までは及んでいない。

B地区では，道路西側の各トレンチで現道に平行する浅い溝が検出され，東側でもA地区のものと一連と推定される道路跡が検出された。また，東側ではB５区からB13区の間で８個所９基の縄文時代早期の炉穴跡を検出した。この炉穴群からなる集落跡は南北 100m近くの規模と推定されるが，西側については，1982年に君津郡市文化財センターが実施した清水川台遺跡の調査区には及んでおらず(注1)，一方B地区東側の畑には縄文土器片や石鏃・チップが散布しているので，集落跡が調査区の東方に広がっていることが予想される。



清水川台遺跡では東西80mほどにわたって８世紀後半に中心をおく竪穴住居跡10軒・掘立柱建物跡１棟・塀跡１条が検出され，鉄滓やフイゴ羽口の出土の目立つ遺跡である。遺構の広がりは今回の調査区寄りの東端付近までは及ばず，今回の調査区でも奈良時代の遺構や遺物は認められな



中林遺跡B地区トレンチ配置図
(1：1000)

かった。一方，調査区北方の清水川台古墳の周辺まではフイゴ羽口片や土師器・須恵器片が散布している。古墳のあたりを北限とする台地南辺に面した鉄生産にかかわる小規模な集落とみられる。

今回の調査区に挟まれた道路(市道111号線)を地元では「鎌倉街道」と称しており，調査でも現道に先行する道路跡を数条検出した。それらが中世まで遡るかは今回の調査の範囲では明らかではない。また，A地区北端に近い道路交点には寛政8(1796)年に代宿村が建てた道標があり，そこで「鎌倉街道」と鋭角に交わる小径を「たかくら道」と呼び，道標より北の「鎌倉街道」を「ちばでら道」と呼称していたことが判り，江戸後期には木更津市矢那の高蔵寺(高倉観音)と千葉寺を結ぶ巡礼の往還であったことが知られる。調査地付近では，「たかくら道」が南北方向に走るのに対して「鎌倉街道」の走向は分水界に沿って北で大きく西に振れ，清水川台遺跡の奈良時代の遺構の振れに近い。この「鎌倉街道」の呼称に歴史的根拠があるとしたら，袖ヶ浦町下新田から市原市立野にかけて，一部では旧郡界と重りつつ分水界上を走る既知の鎌倉街道との関連が問われてくる。

(宮本敬一)

(注1)佐久間豊，小石　誠，光江　章『清水川台遺跡発掘調査報告書』(財団法人君津郡市文化財センター 1983)

8 沢（さわ） 遺 跡

事 業 名　南総運動広場建設に伴う埋蔵文化財調査

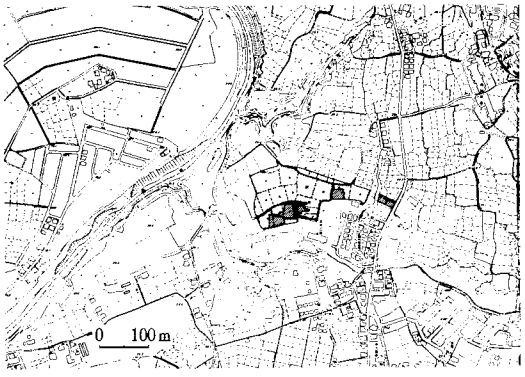
所 在 地　市原市奉免字沢 165他

調査期間　昭和59年８月１日～昭和59年12月10日

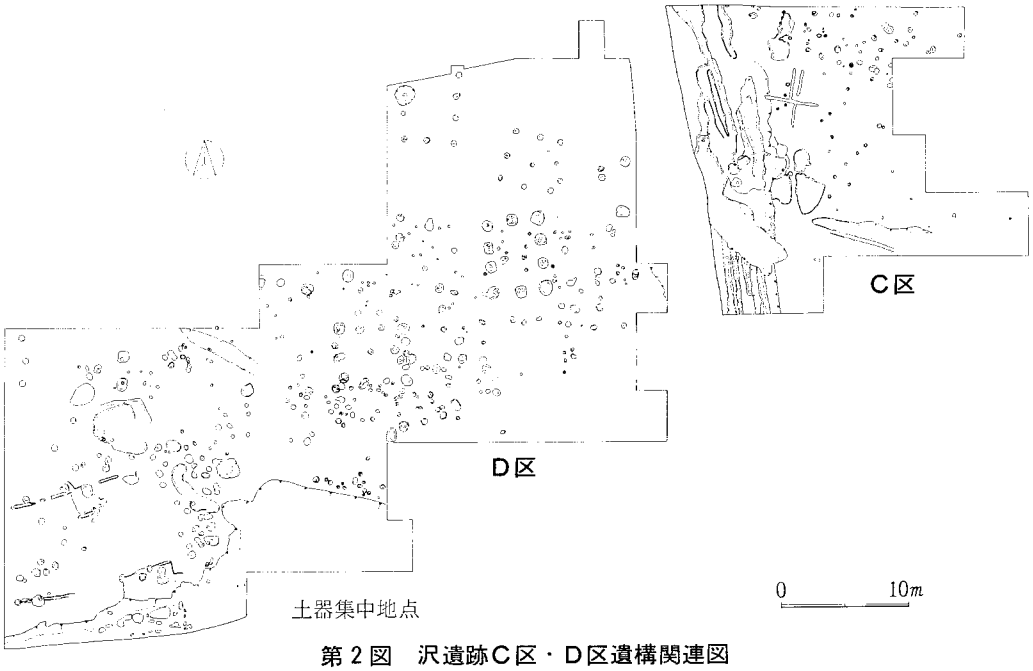
調査面積　18,910㎡のうち 1,891㎡（確認調査）・ 3,060㎡（本調査）

調査概要　養老川は中流域で多くの蛇行を見せているが，その一角，小湊鉄道牛久駅の北方600mの地に，今回発掘調査の対象となった沢遺跡がある。当地域は，段丘・下位面上でありかつては畑地として開墾されていたが，調査時には水田として転換されていた地域である。

調査は，南総運動広場建設に先行する埋蔵文化財の調査として，先づ確認調査を行ない，その結果，3,060㎡について本調査の対象としたもので，３ヶ所，４地区に分けて調査を実施した。



第１図　沢遺跡の位置と周辺地形図



第２図　沢遺跡Ｃ区・Ｄ区遺構関連図

以下，本調査により得られた成果について，若干の遺構・遺物を図示し，簡単に説明を加えることにしたい。

本調査に際して，便宜上、運動広場の入口部にあたる地域をA地区，その西側部をB地区とし，更にB地区の西方部を第2図に示す様に，東からC地区・D地区とした。

A地区では，東西方向に走る2条の溝状遺構が検出されている。この内，南側の溝状遺構では，遺構底面の全面から，石川窯の製品と思われる須恵器を含む土器細片が出土している。

B地区では，竪穴住居跡1軒，工房跡(？)1軒（2部屋），溝状遺構7条が検出されている。

ここで，竪穴住居跡と工房跡とした竪穴は，建物の方位が一致する点，及び，それらと方向を同一にする溝状遺構が周囲を巡る様に配置されている点等，住居と工房，溝といったそれぞれに性格を異にする遺構が同一時期のものとして，近接した状態で検出され，一つの住居空間を考える上で好資料を提供している。この付近から出土した土器には，第3図1～3が挙げられる。又，工房跡と考えた竪穴からは，土器類及び，数点の刀子等の鉄製品が出土している。

C地区では，住居関係の遺構は検出されていないが，その西側部で，南北方向に走る数条の溝状遺構と，東側部で幾つかの大・小ピットが検出され，第3図5に示した様な須恵器坏の完形品等の出土がある。

D地区は，今回調査を行なった各地区中では，最も調査面積の広い個所である。調査の結果，竪穴住居跡1軒，掘立柱建物跡4棟及び小ピットが多数検出されている。

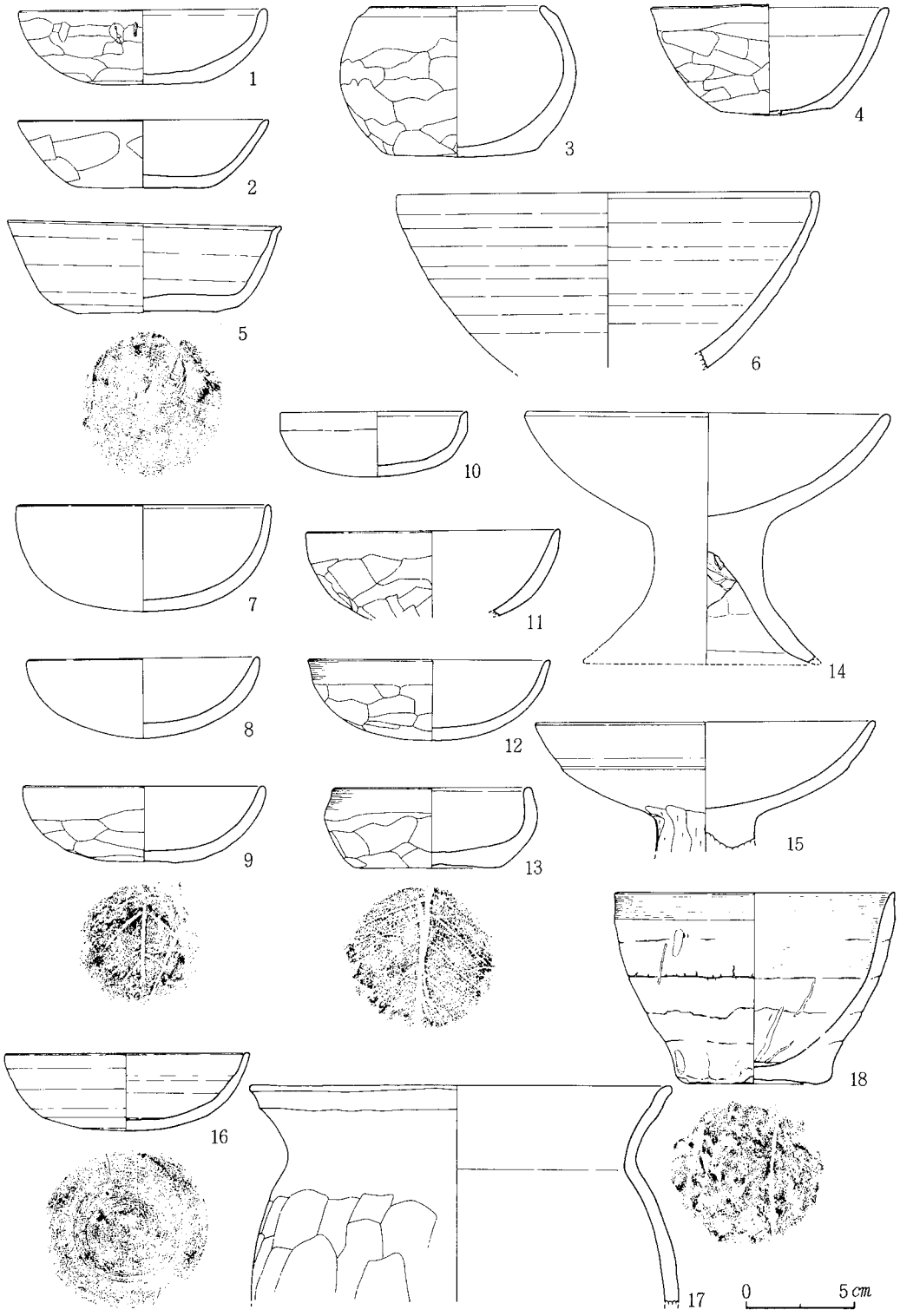
竪穴住居跡は，D地区の西南部において検出されたが，住居跡の南側半分ほどが残存していないため，住居全体についての様相は不明である。なお，当住居跡の南側，一段下がった地点から多数の土器が検出されたので，これらの中から，完形品として捉えられるもの，あるいは全体の形状を良く窺うことができるものについて，その一部を第3図7～18として掲げた。

これらには，坏（土師器・須恵器），高坏，鉢，甕等の形状を呈した土器類がある。

掘立柱建物跡は，2間×3間の建物跡が3棟，2間×2間の建物跡が一棟検出されている。又，これら建物跡に明確に伴う遺物は出土していないが，付近から第3図6に示した鉄鉢形土器が出土している。

以上の様に，遺構，遺物について概略を記した。これらを見ると，沢遺跡とした当地域は，古墳時代～平安時代にかけて，人々の居住の場として活用されたいたことが窺われる。

当地域南方の浅い谷を挟んだ向かい側には，牛久の古墳群，又，北方の奉免・妙香一帯にも古墳群が存在している。これら古墳群と，居住区としての当沢遺跡地区，及び水田耕作の対象地として利用されたであろう南東部の谷底平野，西方にみられる養老川の氾濫平野等の関係を明らかにして行くことも，今後に残された一つの課題と言えよう。（米田耕之助）



第３図　沢遺跡出土土器実測図

9（大　厩）浅間様古墳

事業名　材料置場造成に伴う埋蔵文化財調査

所在地　市原市大厩川上台1395他

調査期間　昭和59年5月15日～10月31日

調査面積　2,117m²（本調査）

調査概要　房総半島の背梁をなし中央部を南北にはしる房総丘陵からは，幾筋もの川が東京湾にそそいでいる。北から村田川・養老川・小櫃川・小糸川等があり，それぞれ肥沃な沖積平野を形成し，大型古墳からなる古墳群をも有している。村田川と養老川にはさまれて標高20～30mの起伏のない平らな台地が南北に続き，市原台地・菊間台地とも呼ばれ，この台地の東京湾に面した一帯には，村田川や養老川の開析した沖積地が広がっている。浅間様古墳は，この菊間台地先端のやや東京湾より奥まった，村田川を見おろす台地上に位置する。台地上には，弥生時代の集落跡として著名な大厩遺跡・大厩古墳群・大厩北古墳群などが知られ，浅間様古墳はこの中でも最大級のもので，大厩北古墳群の主墳として考えられるものである。古墳は台地縁辺に築造され，北側で村田川に面し，西・南側は墳丘裾部まで宅地化され，東側は切り道によって周溝を大きく失い，墳頂部は大きく掘り込まれそれより南側に参道を設け浅間様を御祭りしている。墳丘は周辺が宅地化され開発されているものの比較的良好に原形を留めており，墳丘裾部南北長45m・東西長44m，高さは南側で6m・北側斜部で11.4mほどを測り，墳頂部は中央部を大きく掘りくぼめられていることを除くと比較的平坦である。

調査は，墳丘全域と周溝部の北側斜面と南側一部分を対象として行った。調査の途中であるが，周溝外径約64mを測る円墳と思われ，周溝は一部分だけの調査であったが，周溝外側が急な立ち上がりをするのに対して，内側は緩やかに立ち上がり急勾配の墳丘へと移行している。遺物は，墳頂より流出したような状況で若干の壺の破片を出土するだけで規則的に配された状況はなく，周溝からも数点が出土しただけにすぎない。

埋葬施設は，墳頂部より2.90mまでの間に，棺底を異にした3基を検出した。3基とも木棺直葬であるが掘り方を有しないことから，棺を固定した後ローム土だけで被覆し，次々と埋葬したものと思われ，埋葬施設の設置状況から，1→2→3号と構築される。また，主体部の構築土はローム土だけで行い，粘土などを使用しないことも特徴と言える。

3号主体部は，棺底を墳頂より1.70m下に置き縁辺部に設けられるもので，上層断面のベルトだけの検出になってしまったが，棺底幅 0.5mを測り，断面船底形を呈し，滑石製臼玉7点・鉄製品の小片2点を出土している。

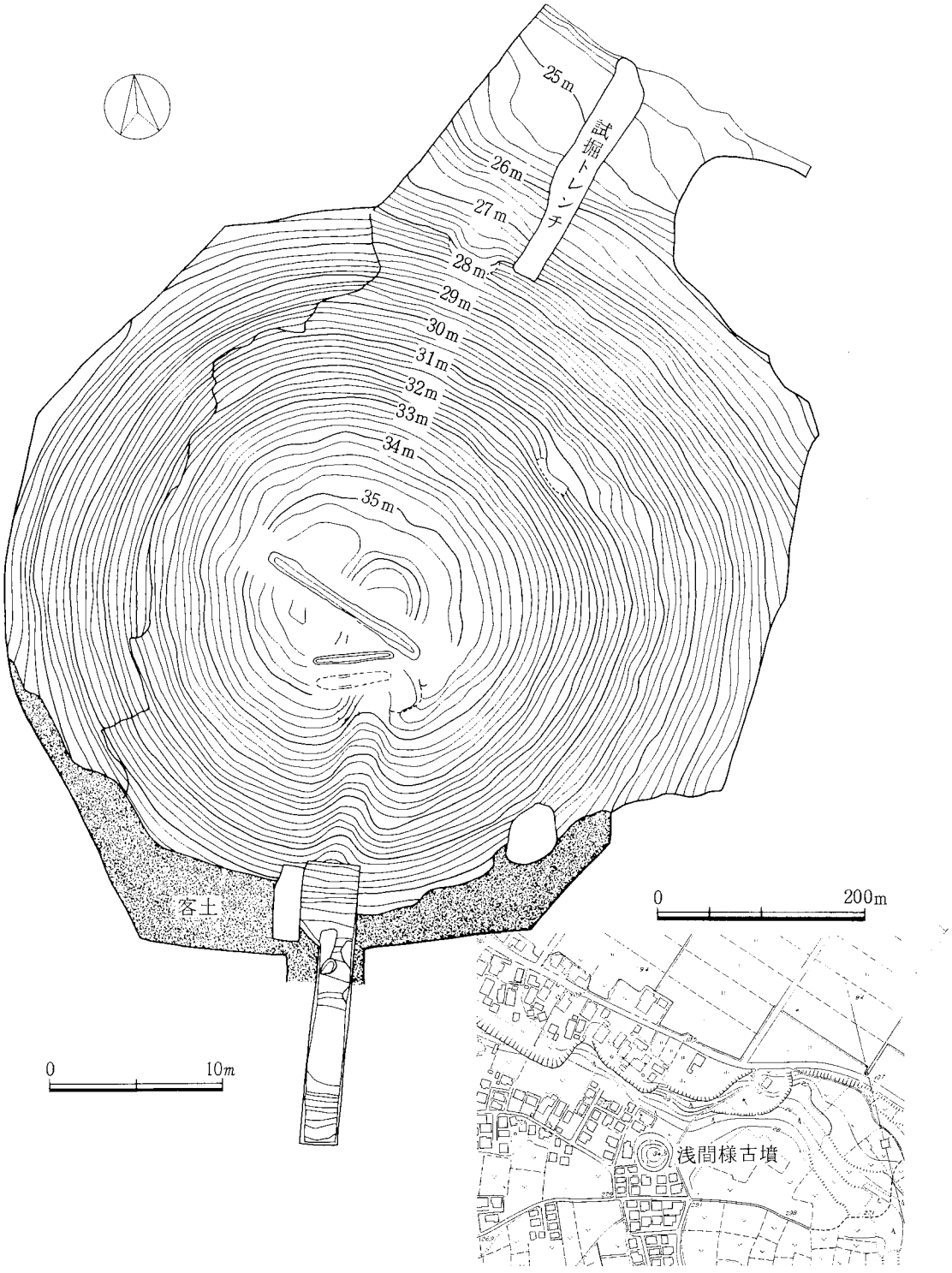
2号主体部は，棺底を墳頂より1.90m下に置き，主軸長4.70m・幅0.55mを測り，断面船底

形を呈する。出土遺物はガラス小玉４点と，長さ19.2cmの小型の剣だけある。

１号主体部は本墳の本来の被葬者のものと思われ，主軸長 10.70m・棺底幅 0.8mほどを測る。断面は緩やかな船底形を呈し，副葬品の出土した中央部には朱が染み込んでいる。副葬品は，珠文鏡１・石釧１・刀子１・瑪瑙勾玉２・琥珀勾玉７・琥珀棗玉４・琥珀小玉19・管玉53・ガラス小玉31・ガラス勾玉１である。

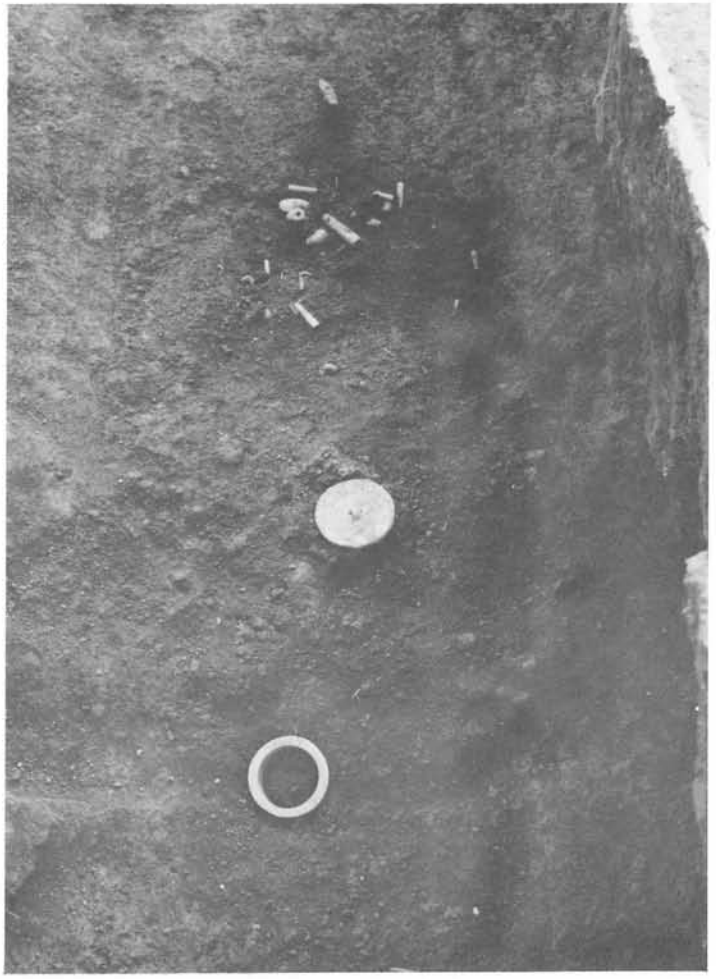
調査は未了のままであり，また整理も行われていないが若干の問題点にふれて置きたい。第１に築造年代であるが，墳丘より出土する壺形土器は外面が荒い刷毛目整形を施すこと，２号主体部より出土した小型の剣，また石釧などの出土より，村田川下流左岸先端部台地上に築造される新皇塚古墳の出土遺物と比較して考えると，新皇塚古墳よりは古くはないがさほど時間差のない時期とすることができ，４世紀末から５世紀初頭に築造年代を置くことができよう。第２点は副葬品について，１号主体部より出土した珠文鏡や石釧も本墳の被葬者を語る場合にかかせないものであるが，なによりも琥珀製品の豊富さに注目しておきたい。第３に被葬者についてであるが，本墳が村田川河口よりやや奥まった村田川中流域の台地上に占地し，新皇塚古墳築造後，村田川流域を拠点とする菊間国造代々の首長クラスの古墳が台地先端に位置することから，新皇塚古墳の被葬者より一階級下の中流域を支配した首長の古墳と思われる。

（浅利幸一）


25m
26m
27m
28m
29m
30m
31m
32m
33m
34m
35m
試掘トレンチ
客土
0
10m
0
200m
浅間様古墳

大厩浅間様古墳全体図

1号主体部全景



1号主体部遺物出土状況

10　永田（ながた），不入（ふにゅう）窯跡

事業名　国営圃場整備に伴う埋蔵文化財調査

所在地　市原市不入 697－43他

調査期間　昭和59年10月29日～昭和59年11月30日

調査面積　3,000㎡のうち300㎡（確認調査）

調査概要　永田窯跡及び不入窯跡は，養老川中流域東岸の曲流によって作られた洪積世低位河岸段丘の傾斜面に位置する須恵窯跡群である。この河岸段丘は周囲を旧河道によって囲まれた長さ約 1.8kmの鳥の頭に似た形状を呈しており，典型的な「曲流・短絡地形」の中島にあたる。

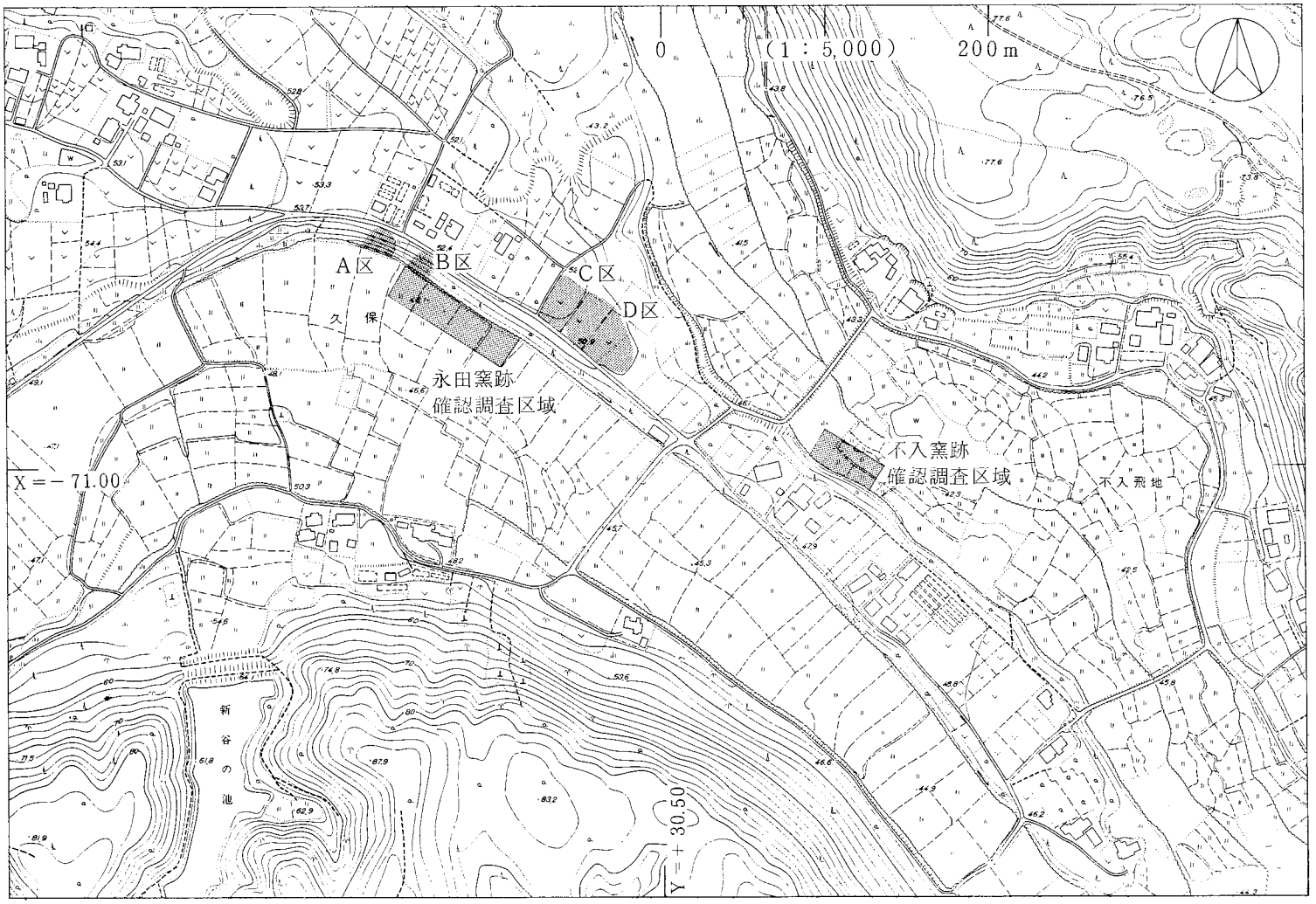
両窯跡は，この鳥の頭から南東方向に長く伸びた嘴の根本付近の南側斜面に永田窯跡が，北側斜面に不入窯跡が作られている。両者が立地する斜面は，付近の斜面に比べ台地面と水田面との比高差が高く，共に勾配も比較的急であるという点で共通しており，この両条件を兼備える地形がこの中島では限られていることから，窯の構築にあたっては，地形を選んで行なわれているものと思われる。

本窯跡は1974年に斜面部の窯本体を対象とした確認調査が実施されており，その報告書も刊行されている。また，消費地としての寺院，集落等の遺跡における出土品についても，報告・論考が行なわれており，県内唯一の８世紀代の須恵器窯として，あるいは上総国分寺との関連からも注目されている。

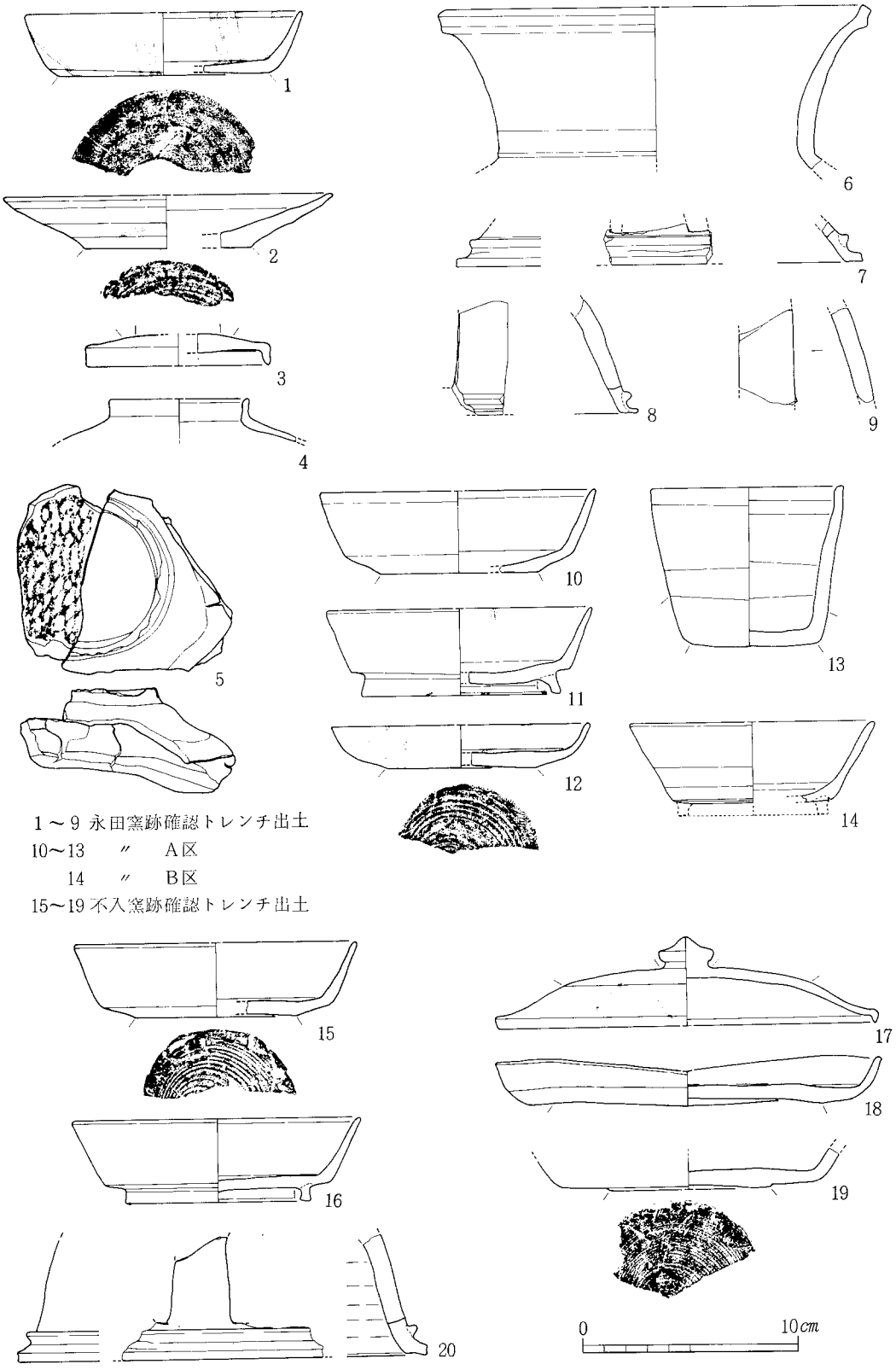
調査は灰原部に相当する窯跡直下の水田面を対象とした保存区域確定のための確認調査である。このため，水田面に確認トレンチを設定し，灰原の層序の確認及び各層毎の出土遺物の取りあげを行なった。その結果，灰原中の炉壁，炭化物，須恵器片は斜面直下では多いものの対岸台地に向かって減少しており，全体としては比較的小規模であることが判明した。遺構は検出されなかった。遺物は須恵器片がほとんどで，他に焼台としての瓦が４点出土している。

今回の調査は灰原部を対象としているために，前回の窯本体の調査以上の成果は得られなかったが，次の事が新たに確認された。永田窯では口径８cm以下の小型短頸壺が新しい器種として追加され，円面硯が本窯跡においても出土したこと，底部回転糸切り離し後無調整の坏が６点出土したことなどが判明している。不入窯跡については，底部回転糸切り離し後無調整の坏が１点出土し，円面硯が１点追加されたのみで，前回の調査に比べると少ない。

尚，永田窯跡においては，前回調査された地域より北面側に隣接して赤褐色に焼成された土器を散布する地区（Ｂ区）と，さらに北西側に新たな窯（Ａ区）が発見された。（山口直樹）



永田，不入窯跡調査位置図



1～9 永田窯跡確認トレンチ出土
10～13 〃 A区
14 〃 B区
15～19 不入窯跡確認トレンチ出土

永田・不入窯跡出土遺物実測図

11　萩ノ原北遺跡

事業名　南総ゴルフ場増設工事に伴う埋蔵文化財調査

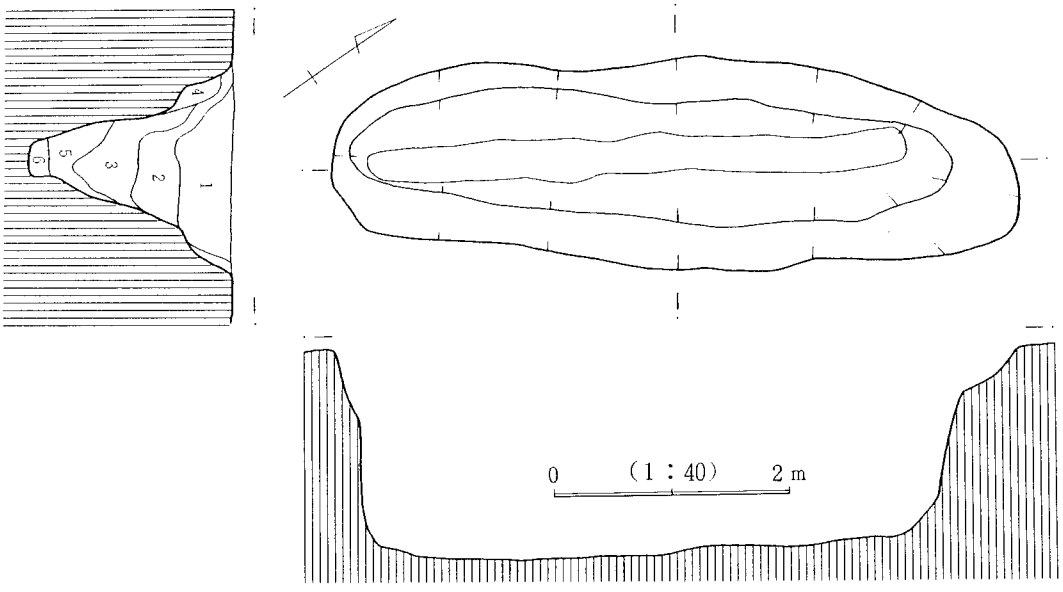
所在地　市原市上高根字萩ノ原壱1611番1他

調査期間　(確認調査) 昭和59年8月1日～昭和59年10月3日

調査面積　46,000m²のうち4,600m² (確認調査)

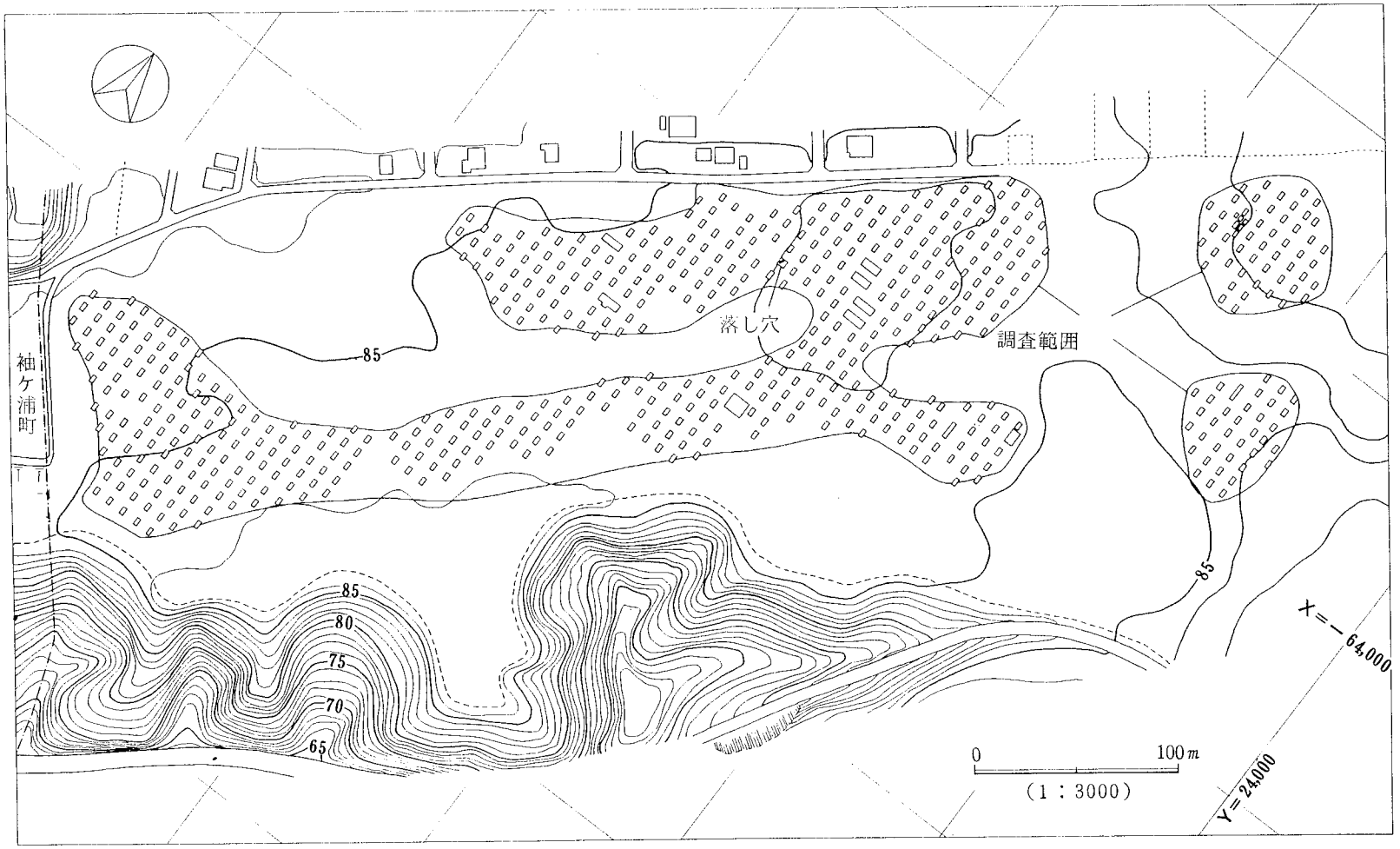
調査概要　本遺跡は，小櫃川の支流松川の最奥部，養老川支谷との分水界に続く台地上に位置している。調査区は，北東～南西方向に伸びる細長い舌状台地の基部付近にあたる。開発に伴う調査範囲は，さらに南西方向に続いているが，袖ヶ浦町との行政境となるため，隣接するこの区域は(財)君津郡市文化財センターが調査を担当した(東郷台遺跡)。本遺跡の対岸台地上には萩ノ原廃寺(1976年調査)があり，又，東郷台遺跡においても廃寺跡(川原井廃寺)の存在が確認されたにもかかわらず，当センター調査区においては，該期の遺構・遺物は全く検出さておらず，縄文時代の落し穴遺構1基と縄文式土器(中期)数片が確認されたのみであった。

(山口直樹)



1. 暗褐色土　有機性強くローム小粒を霜降り状に焼土を微量含む。
2. 褐色土　ローム土と暗褐色土との混合土ローム粒を霜降り状に含む。しまりはないが粘性がある。
3. 黄褐色土　ローム崩壊土を主体とし有機質の影響を若干受ける。
4. 黄褐色土　ローム崩壊土を主体とする。
5. 黄褐色土　ローム崩壊土中にローム小ブロックを若干含む。しまりを欠く。
6. 暗褐色土　有機質土とローム崩壊土との混合土。しまりを欠く。

萩ノ原北遺跡検出落し穴遺構図



萩ノ原北遺跡全体図

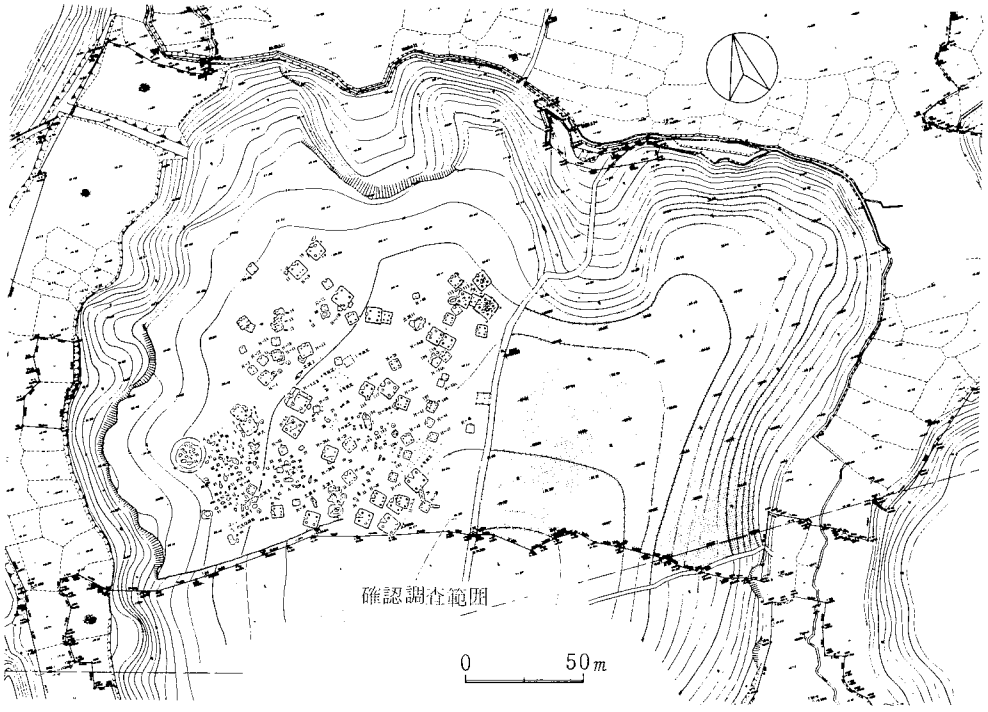
12　千草山遺跡

事業名　文化施設建設に伴う埋蔵文化財調査

所在地　市原市能満字東千草山1476

調査期間　昭和60年1月10日～昭和60年5月25日

調査面積　15,000m²のうち1,068m²（確認調査）



千草山遺跡周辺地形図

調査概要　千草山遺跡は，昭和50年～51年にかけて，北方に突出する台地上北西部23,500m²について，調査が行われ，上図にみる様に，縄文時代，古墳時代・平安時代等の竪穴住居跡計73軒が検出されている。（『千草山遺跡発掘調査報告書』1979）

今回の調査は，以前に調査された区域に接する様に，その東側部分を対象として，文化施設建設に先行する確認調査として実施した。調査の方法は，調査区全域に被さる20×20mの方眼による大グリッドを設定し，大グリット内に2×4mの小トレンチをそれぞれ4ヶ所設け，これを掘り下げ遺構の存否を確認したが，以前に調査された西側部の様相から，今回の調査区においても，当然住居跡等の遺構が存在するものと予想されていた。

確認調査の結果，竪穴住居跡の落ち込みと思われる個所が30数ヶ所確認されたのをはじめ，溝状遺構，焼土，粘土塊等々が検出され，東北側斜面部では，ブロック状の貝層も見られた。

なお，当調査区は，昭和60年度に本調査が実施される予定である。（米田耕之助）

13　山田大宮遺跡

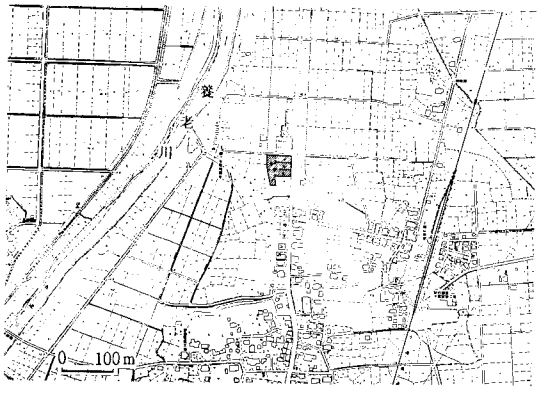
事業名　今富郵便局建設に伴う埋蔵文化財調査

所在地　市原市山田字大宮714他

調査期間　昭和60年3月1日～昭和60年3月30日

調査面積　1221.99m²（本調査）

調査概要　房総半島のほぼ中央部太平洋を望む清澄山系に源を発し，山間部を縫う様に幾多の蛇行を見せながら北流する河川は，養老川と呼ばれ半島中最大級の河川である。養老川は，山間部から高滝付近で徐々に平坦部の広がりへと移り，段丘あるいは氾濫平野の発達，メアンダー等を見せる地域を形成しつつ，台地間を抜け出し現東京湾に流入する。



第1図　山田大宮遺跡の位置と周辺地形図

今回調査の対象となった山田大宮の地は，第1図に見る様に小湊鉄道上総山田駅の西北300mに位置し，当地の西側 250mには南から北方に向って流れる養老川の雄姿を望むことができる。

調査は，郵政省による今富郵便局建設に先行する埋蔵文化財調査として，施行されたものである。調査時，当地域一帯は水田及び畑地として活用されていた地であった。調査の結果，第2・3図に見る様な遺構・遺物を検出している。以下，検出した遺構・遺物について簡単に記載する。遺構は大別して二種見ることができる。第一は，調査区の南側部に顕著な方形周溝墓であり，第二は，北側部に東西方向に走る数条の溝状遺構である。これら二つの異なった遺構は，そのまま二つの異なった時代の所産として捉えられるものである。すなわち，方形周溝墓は，弥生時代中期に，又，溝状遺構は近世以降の所産として把握することができる。

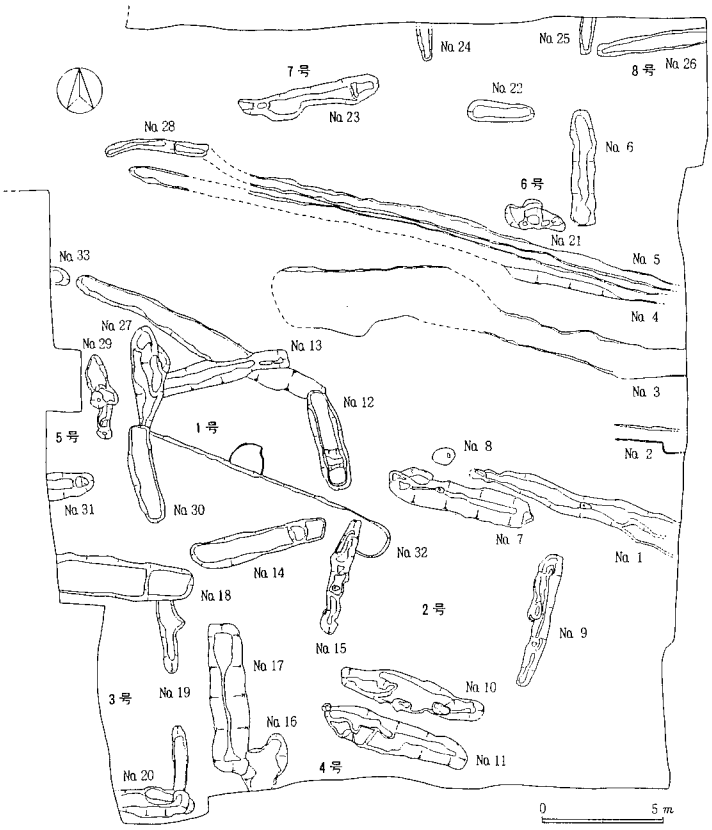
方形周溝墓は8基分が検出されたが，完掘され，全体の規模・形状が明らかとなったのは，2基分である。これら方形周溝墓は，いずれも四隅が開口する形状を呈したもので，時期的には第3図の出土土器に見る様に，宮ノ台式期に位置付けることができる。方形周溝墓に伴出した遺物は，土器のみで他の遺物は検出されていない。土器の出土状態は構内の底面直上から出土する例と，底面より若干浮いた状況を呈したものがあり，これら土器の内，全体の形状が大体把握できる例の中から四点を第3図に掲げた。いずれも壺形の形態を呈する土器であるが，他に甕形土器もある。壺形土器には，磨消縄文により文様を構成するもの（ 1・3 ），半截竹管による平行沈線を波状と横位な直線による組み合わせによる文様を見せるもの（ 2 ），櫛，

ハケ目による条痕を器面表裏に施すもの(4)等大別三種の文様が見られる。

又，甕形土器では，口唇部に刻目を有するもの，指押捺による小波状を作り出すものの二種に大別され，器面には，ハケ目調整が施されている。

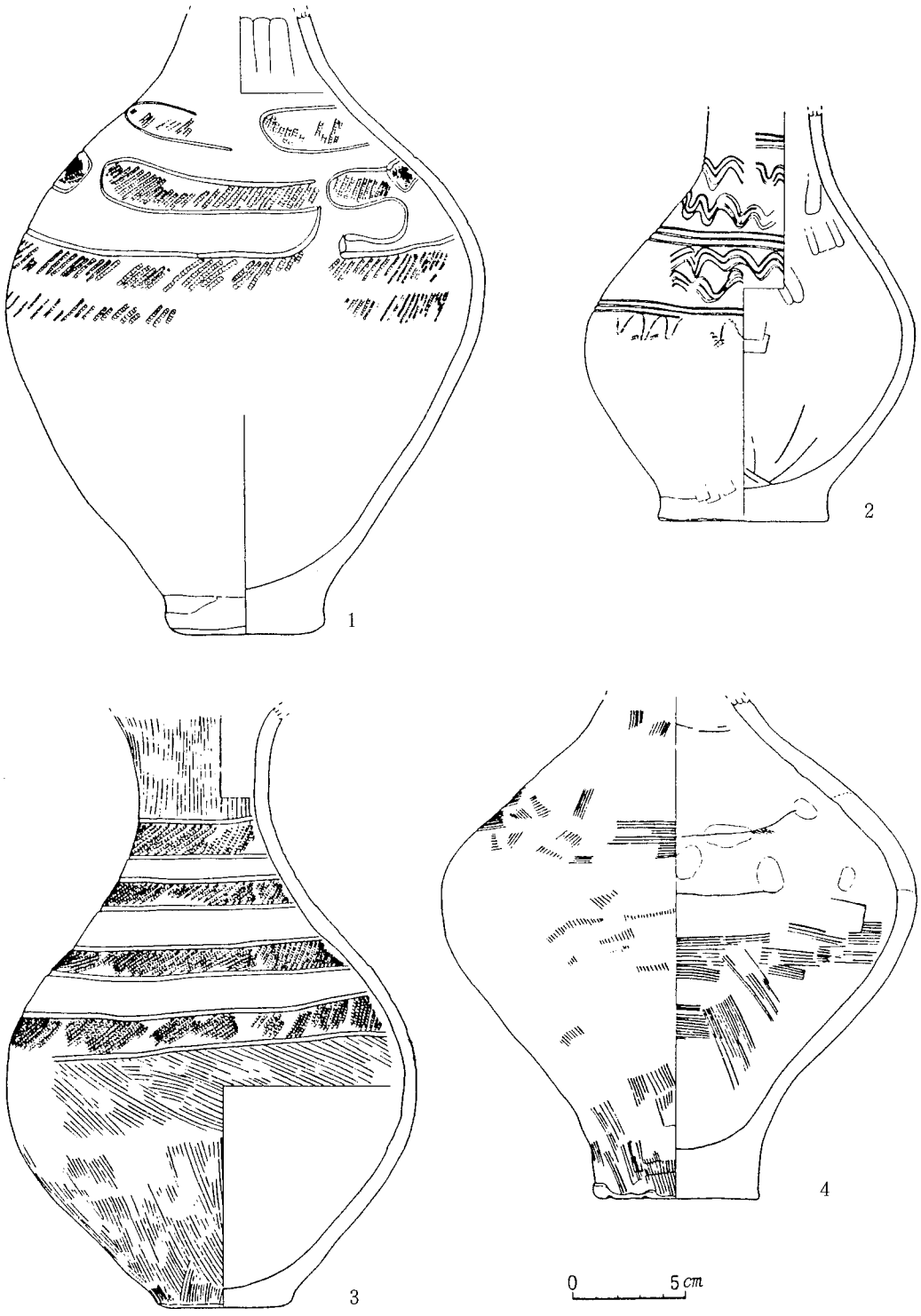
壺形土器の状況を観察すると，図示した土器に代表される様に，いずれも口縁部が欠損していることが特徴的であり，土器副葬に際して，口縁を破壊し，周溝内に安置する様子を窺うことができる。

方形周溝墓とは別に検出された溝状遺構は，東西方向に5条検出されたが，これらの溝内及び，その周囲からは，陶器片，キセルの雁首，天保通寶銭等が出土している。



第2図　山田大宮遺跡遺構関連図

今回調査した大宮遺跡は，養老川の東岸に広がる段丘下位面上に位置しているが，調査区から検出された弥生時代の遺構は宮ノ台式期の方形周溝墓のみであることから，この地一帯が，往時墓域として利用されていたことが知られる。又，当地から北・南東方向には，それぞれ下位面の広がりが見られ，大宮の墓域に近接した様相で,集落が形成されていたものと思われる。又，当遺跡の西方 250～ 300mには，養老川が流れ，その流域には東西 500m，南北2kmに亘って氾濫平野が広がっている。この氾濫平野は,養老川中流地域では最大規模を計ることから，弥生時代に至って水田耕作の導入による経済基盤の変化により，氾濫平野の発達した地域に隣接する大宮の地に人々が移住し，ムラを営んでんたものと推測される。氾濫平野あるいは，谷底平野が広がる地域に近接した状況で，宮ノ台式期の遺跡が検出されている付近の遺跡例として，養老川を更に下った下流東岸域の国分寺台地上の諸遺跡，あるいは村田川南岸の菊間・大厩両遺跡等を挙げることができる。報告書は昭和61年3月10日に刊行予定。（米田耕之助）



第3図　山田大宮遺跡出土土器実測図

14　下鈴野遺跡（確認調査）

事業名　（仮称）帝京技術科学大学の用地に係る埋蔵文化財調査

所在地　市原市潤井戸字上清水谷1684他

調査期間　昭和60年２月25日～昭和60年３月20日

調査面積　86,700m²のうち8,670m²

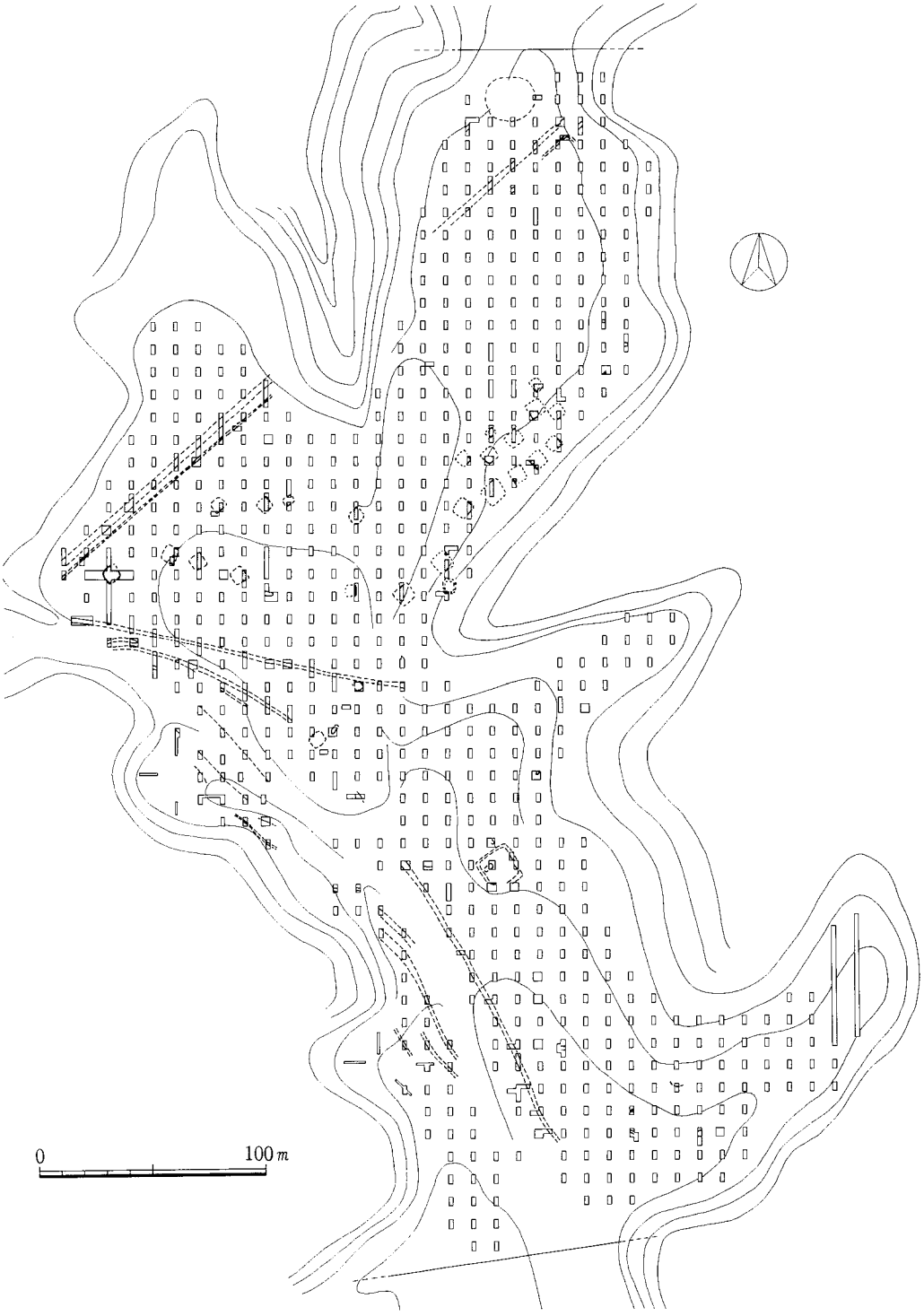
調査概要　下鈴野遺跡の所在する台地は東側が村田川中流域に下る支谷に面し，西側で村田川の支流である神崎川中流域に面する小支谷に挟まれる台地で，現況は櫟木やすすきの植茂る荒地である。調査は，59年度事業計画にはなく，年度途中の緊急調査であった。調査範囲は，試掘により造成計画内台地上の平坦面に限定され，台地全体に10m方眼に杭を打ち，これを基点に２×４mのグリットによる調査を行い，現況に合わせグリットを拡張し，調査したグリットは900以上にのぼる。

調査の結果，円墳１基・方墳１基・方形周溝１基・住居跡23軒・溝13条以上・性格不明落ち込み８ヶ所以上を確認した。

縄文時代のものは，東側支谷寄りの傾斜面部より散在的に中期の土器を出土するだけで遺構は検出できない。古墳時代は住居跡23軒・円墳１基・方墳１基を検出し，住居跡は五領期に限定できるものと思われる。調査区北端部より検出した円墳は，外径20m前後を測り，盛り土部も1mほどの高さを保っている保存状況の良好な古墳である。調査区中央より検出した方墳は，一辺17m前後を測るものと思われるが周溝が不規則に検出される。古墳時代以降のものには，方形周溝・溝等が検出されるが，出土遺物が極めて少く時期の限定はできない。しかしながら，調査区北側で谷を挟んで横断する２条の溝の１条は規模（上面幅４m・下底幅２m前後を測り断面逆台形）から察しても古代末期を中心とした時期と考えられるものである。

下鈴野遺跡は，確認調査終了後60年度前半に本調査へと継続して行われる予定であり，本調査面積は台地北側を中心に３万数千m²である。ともかく確認調査で検出した遺構は本調査においてその性格・時期を定められるであろうし，また新たな遺構を検出できるものと思われる。

（浅利幸一）



下鈴野遺跡確認グリッド配置図

Ⅳ　昭和59年度　受贈図書一覧

書　　名	寄　贈　者	受　入　日
我孫子市埋蔵文化財報告　第4集	我孫子市教育委員会	59．4．10
大阪文化誌　第17号	(財)大阪文化財センター	59．4．13
土偶	米　田　耕之助	59．4．13
宇津山城址東笠子遺跡群確認調査報告書	湖西市教育委員会	59．4．14
東笠子遺跡群発掘調査概報	同	〃
天神山古墳群発掘報告書	同	〃
鳥取県教育文化財団報告書　15	(財)鳥取県教育文化財団	59．4．16
久古第3遺跡・貝田原遺跡・林ヶ原遺跡発掘調査報告書		
考古遺物資料集　第4集	岩手県埋蔵文化財センター	59．4．25
物見処遺跡　1984	国学院大学文学部考古学研究室	59．4．26
森　山　塚	同	〃
熊野堂遺跡第Ⅲ地区雨壺遺跡	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	59．4．27
同　道　遺　跡	同	〃
研　究　紀　要　－1－	同	〃
藪田東遺跡	同	〃
ふるさとの考古資料（Ⅱ）	(財)いわき市教育文化事業団	59．5．1
地名の深層　－地名の系譜と郡評改変－	峯　島　清　二	59．5．4
お茶の水女子大学人文科学紀要　第37巻	鷹　野　光　行	59．5．7
松本市下神・町神遺跡	松本市教育委員会	〃
松本市前田木下遺跡	同	〃
松本市島内遺跡群	同	〃
松本市島立南栗遺跡	同	〃
推定信濃国府	同	〃
千葉・上ノ台遺跡　本文編　先史14	駒沢大学考古学研究室	59．5．11
千葉・上ノ台遺跡　（付篇）　同	同	〃
千葉・上ノ台遺跡・本文編2　同	同	〃
千葉・上ノ台遺跡　本文編3　同	同	〃
長崎・松浦皿山窯址　先史15	同	〃
東京都町田市武蔵岡遺跡－1977・78年度調査－　先史16	同	〃
東京都町田市武蔵岡遺跡－1979年度調査－　先史17	同	〃
東京都町田市武蔵岡遺跡－1980年度調査－　先史18	同	〃
東京都町田市武蔵岡遺跡－1981年度調査－　先史19	同	〃
東京・石川天野遺跡1.2次調査、滝山高燥遺跡	同	〃
第八小学校裏遺跡A地区　先史20		
東京・石川天野遺跡3次調査　先史21	同	〃
東京・石川天野遺跡4次調査　先史22	同	〃
多摩校地A－1地点発掘調査概報	法政大学文学部考古学研究室	59．5．16
千葉県下総町文化財調査報告Ⅰ	下総町教育委員会	59．5．17
－町道1－3号線改良事業に伴う埋蔵文化財調査報告－		
龍正院瓦窯跡（滑川）・裏遺跡と桐ヶ谷（大菅）	同	〃
千葉県下総町文化財調査報告Ⅱ	同	〃
－町道1－3号線改良事業に伴なう埋蔵文化財調査報告－		
遠々地・上敷遺跡・馬場下供養塚群（大菅）	同	〃

書　　名	寄　贈　者	受　入　日
新家（その２）　近畿自動車道天理～吹田線建設に伴う	財大阪文化財センター	５９．５．２１
—付図—　埋蔵文化財発掘調査概要報告書		
〃（その３）　〃	〃	〃
巨摩・若江北（その２）　〃	〃	〃
佐堂（その２）・Ⅰ　〃　—付図—	〃	〃
大堀城跡　〃	〃	〃
ひな人形の世界	大田区立郷土博物館	５９．５．２３
市原市雪解沢遺跡	財千葉県文化財センター	５９．５．２４
尾首城跡発掘調査報告	広島県教育委員会	５９．５．３１
総合研究資料館展示解説	東京大学総合研究資料館	〃
—文化史・自然史の研究紹介—		
堀之内２式土器の研究（予察）	石井　寛	〃
奈良国立文化財研究所年報	奈良国立文化財研究所	５９．６．１
歌舞伎遺跡	財群馬県埋蔵文化財調査事業団	〃
荒砥島原遺跡	〃	〃
〃　土器の観察一覧表	〃	〃
日本考古学研究所集報Ⅵ　—房総弥生式土器の研究　資料編—	日本考古学研究所	〃
栃木県埋蔵文化財調査報告　第61集	財栃木県立化振興事業団	５９．６．７
自治医科大学周辺地区　昭和58年度埋蔵文化財発掘調査概報		
栃木県埋蔵文化財調査報告　第60集	〃	〃
諏訪山遺跡		
愛知県教育サービスセンター埋蔵文化財調査報告書第１集	財愛知県教育サービスセンター	５９．６．８
勝川　名古屋環状２号線建設に伴なう発掘調査報告書		
環状２号線関係　埋蔵文化財発掘調査年報Ⅱ	〃	〃
富士山麓　性の風土記	矢　島　秀　朗	５９．６．１４
大田区立郷土博物館概要	大田区立郷土博物館	〃
上白根おもて遺跡発掘調査報告書　昭和57年度	横浜市埋蔵文化財調査委員会	５９．６．１６
千葉県埋蔵文化財発掘調査抄報	千葉県教育委員会	〃
竜角寺古墳群発掘調査報告書	〃	〃
—第２次（昭和58年度）—		
市原市二日市場廃寺跡確認調査報告書	〃	〃
千葉県中近世城跡研究調査報告書—第４集—	〃	〃
—稲村城跡・臼井城跡発掘調査報告—		
待兼山遺跡	大阪大学文学部国史研究室	〃
京都府遺跡調査概報　第５冊	財京都府埋蔵文化財調査研究センター	〃
第８回研究修会資料	同	〃
梵鐘鋳造遺構の現状とその諸問題		
西町遺跡発掘調査報告書	銚子市教育委員会	５９．６．１８
藤沢市片瀬大源太遺跡の発掘調査	青山学院大学文学部史学研究室	５９．６．２１
福岡市埋蔵文化財センター年報　第３号（昭和58年度）	福岡市埋蔵文化財センター	〃
長野県埋蔵文化財発掘調査要覧	長野県教育委員会	〃
その４　（昭和53年度～昭和57年度）		
京都府埋蔵文化財情報　第８号	財京都府埋蔵文化財調査研究センター	〃
〃　第９号	同	〃
〃　第10号	同	〃
篠窯跡群　—発掘調査の記録から—	同	〃

書　　名	寄　贈　者	受　入　日
横浜市菅田町平台北遺跡群発堀調査報告書	玉川文化財研究所	〃
神奈川県大和市月見野上野遺跡第２地点	同	〃
岩手県埋文センター文化財調査報告書　第70集 江刺家遺跡発堀調査報告書	財岩手県埋蔵文化財センター	〃
岩手県埋文センター文化財調査報告書　第71集 上斗内Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ遺跡発堀調査報告書	同	〃
岩手県埋文センター文化財調査報告書　第72集 府金橋遺跡発堀調査報告書	同	〃
岩手県埋文センター文化財調査報告書　第73集 小森林館跡発堀調査報告書	同	〃
岩手県埋文センター文化財調査報告書　第74集 安堵屋敷遺跡発堀調査報告書	同	〃
岩手県埋文センター文化財調査報告書　第75集 岩手県埋蔵文化財発堀調査略報（昭和58年度分）	同	〃
四街道市の文化財　第10号	四街道市教育委員会	５９．６．３０
むかしの和良比	同	〃
福島県文化財調査報告書　第111集 国営会津農業水利事業関連遺跡調査報告書Ⅰ　下堀際遺跡	財福島県文化センター	５９．７．２
福島県文化財調査報告書　第113集 広域農業開発事業 阿武隈地区遺跡分布調査報告（Ⅲ）（中部第二地区）	同	〃
製鉄遺跡関連資料	同	〃
福島県文化財調査報告書　第114集 国営総合農地開発事業 母畑地区遺跡分布調査報告Ⅶ	同	〃
福島県文化財調査報告書　第115集 国営総合農地開発事業 母畑地区遺跡発堀調査報告Ⅱ 唐松Ａ遺跡(含・唐松館跡)地蔵田Ａ遺跡 地蔵田Ｂ遺跡(含・カナイ館跡)	同	〃
福島県文化財調査報告書　第116集 国営総合農地開発事業 母畑地区遺跡発堀調査報告12 上悪戸遺跡　下悪戸遺跡	同	〃
福島県文化財調査報告書　第117集 国営総合農地開発事業母畑地区遺跡発堀調査報告13 薬師堂遺跡，蓬入遺跡，栗木内塚	同	５９．７．２
福島県文化財調査報告書　第118集 真野ダム関連遺跡発堀調査報告Ⅳ 松ヶ平Ａ遺跡（第２次）付　予備調査	同	〃
福島県文化財調査報告書　第128集 真野ダム関連遺跡発堀調査報告Ⅴ 上ノ台Ａ遺跡（第１次）　宮前遺跡	同	〃
福島県文化財調査報告書　第129集 真野ダム関連遺跡発堀調査報告Ⅵ 松ケ平Ａ遺跡（第２次），松ケ平Ｄ遺跡，柏久保遺跡	同	〃
福島県文化財調査報告書　第130集 国営総合農地開発事業 母畑地区遺跡発堀調査報告14 雨田館跡，矢先石遺跡，小倉地区塚群	同	〃
福島県文化財調査報告書　第131集 国営総合農地開発事業 母畑地区遺跡発堀調査報告15	同	〃

書　　名	寄　贈　者	受　入　日
駒形A遺跡, 梅木平遺跡(含 梅木平塚) 東作田A遺跡, 東作田C遺跡		〃
福島県文化財調査報告書　第132集	同	
国営総合農地開発事業 母畑地区遺跡発掘調査報告16		
一斗内遺跡		
福島県文化財調査報告書　第133集	同	〃
国営総合農地開発事業 母畑地区遺跡分布調査報告Ⅷ		
福島県文化財調査報告書　第134集	同	〃
国営総合農地開発事業 矢吹地区遺跡分布調査報告Ⅳ		
福島県文化財調査報告書　第135集	同	〃
国営会津農業水利事業関連遺跡調査報告書II		
北ノ前遺跡, 下谷ケ地平A遺跡, 付 予備調査		〃
福島県文化財調査報告書　第136集	同	
相馬地域開発関連遺跡分布調査報告Ⅰ〈武井地区〉		
(財)茨城県教育財団　年報3　昭和58年度	(財)茨城県教育財団	〃
甦る鹿の子C遺跡　―教育普及版―	同	〃
茨城県教育財団文化財調査報告　第23集	同	〃
常盤自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書7		
二本松古墳, 石神外宿A遺跡, 石神外宿B遺跡		
茨城県教育財団文化財調査報告　第24集	同	〃
水海道都市計画事業・小絹土地区画整理 事業地区埋蔵文化財調査報告書2		
筒戸A遺跡, 筒戸B遺跡―遺構・遺物編(上)―		
茨城県教育財団文化財調査報告　第24集	同	59. 7. 2
水海道都市計画事業・小絹土地区画整理　事業地内埋蔵文化財調査報告書2		
筒戸A遺跡, 筒戸B遺跡－写真図版編(下)－		
茨城県教育財団文化財調査報告　第25集	同	〃
竜ケ崎ニュータウン内埋蔵文化財調査報告書9		
仲根台B遺跡, 町田遺跡		
茨城県教育財団文化財調査報告　第26集	同	〃
常盤自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書8		
木葉下遺跡II（窯跡）		
干支年表　中・近世編	大　内　画　版	〃
千葉県埋蔵文化財発掘調査抄報　―昭和57年度―	千葉県教育委員会	〃
隼上り瓦窯跡発掘調査概報	宇治市教育委員会	59. 7. 3
宇治市埋蔵文化財発掘調査概報　第3集		
神奈川県埋蔵文化財調査報告26	神奈川県教育委員会	59. 7.
昭和57年度　県埋蔵文化財緊急発掘調査概要		
昭和57年度　県内埋蔵文化財発掘調査概要		
財団法人 枚方市文化財研究調査会　　研究紀要　第1集 1984	(財)枚方市文化財研究調査会	59. 7. 6
枚方市文化財調査報告　第17集	同	〃
楠葉瓦窯跡・粟倉瓦窯跡発掘調査報告		
枚方市民俗文化財調査報告1　春日	同	〃
四国縦貫自動車道関係 埋蔵文化財調査報告書	(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター	59. 7. 9
仏殿城跡　－埋蔵文化財確認調査報告書－	同	〃
愛媛県総合運動公園（動物園）整備計画 埋蔵文化財調査報告書(II)	同	〃
甦る埋蔵文化財	同	〃
－(財)愛媛県埋蔵文化財調査センターのあゆみ－		

書　　名	寄　贈　者	受　入　日
町田市・玉川学園構内 玉川学園本部台遺跡調査報告	玉川学園本部台遺跡調査委員会	〃
栃木県埋蔵文化財調査報告　第57集	栃木県教育委員会	〃
赤羽根 一般国道50号(岩舟～小山バイパス)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告		
本　文　編		
写真図版編		
土器観察表編　付図		〃
栃木県埋蔵文化財調査報告　第58集	同	〃
伯仲遺　跡		〃
一般国道50号(岩舟～小山バイパス)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告		
県営かんがい排水事業関連遺跡発掘調査報告書Ⅰ	財滋賀県文化財保護協会	５９．７．１２
－長浜市金剛寺遺跡－		
ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書　Ⅹ－１	同	〃
〃　Ⅹ－２	同	〃
〃　Ⅺ－１	同	〃
瀬田川凌渫工事に伴う流域分布調査	同	〃
瀬　田　川　付図		
北九州市埋蔵文化財調査報告書　第23集	財北九州市教育文化事業団	〃
櫛 毛 遺 跡		
－九州縦貫自動車道関係文化財調査報告１－		
北九州市埋蔵文化財調査報告書　第24集		
長野Ａ・Ｅ遺跡調査概報	同	〃
－北九州市小倉南区長野所在－		
北九州市埋蔵文化財調査報告書　第25集		
御 堂 遺 跡		
－九州縦貫自動車動関係埋蔵文化財調査報告２－		
北九州市埋蔵文化財調査報告書　第26集	同	〃
馬責場遺跡		
－北九州市八幡西区大字永犬丸所在－		
北九州市埋蔵文化財調査報告書　第27集	同	〃
葛原(A)・(B)遺跡		
－北九州市小倉南区葛原所在　古墳時代後期集落址の調査－		
－九州縦貫自動車道関係文化財調査報告３－		
北九州市埋蔵文化財調査報告書　第28集	同	〃
砥石山遺跡		
－北九州市小倉南区下城野所在－		
北九州市埋蔵文化財調査報告書　第29集	同	〃
本村地下式横穴群		
－九州縦貫自動車道関係文化財調査報告４－		
北九州市埋蔵文化財調査報告書　第30集	同	〃
徳力遺跡　第二地点		
－北九州市小倉南区大字徳力所在－	同	〃
北九州市埋蔵文化財調査報告書　第31集		
春日台遺跡		
－北九州市小倉南区大字徳力所在		

書　　名	寄　贈　者	受　入　日
北九州市埋蔵文化財調査報告書　第32集 畑 積 石 塚 －九州縦貫自動車道関係文化財調査報告５－	同	〃
北九州市埋蔵文化財調査報告書　第33集 本城南遺跡 －北九州市八幡西区本城所在遺跡群の調査－	同	〃
北九州市埋蔵文化財調査報告書　第34集 丸　山　古　墳 －北九州市小倉南区大字曽根字丸山亀甲所在	同	５９．７．１２
北九州市埋蔵文化財調査報告書　第35集 畠山古墳・畠山遺跡（Ｂ－１地点） －北九州市小倉南区大字田原６３２－１所在－	同	〃
北九州市埋蔵文化財調査報告書　第36集 畠山遺跡（Ｄ地点） －北九州市小倉南区大字田原５７７－１所在－	同	〃
栃木県埋蔵文化財調査報告　第59集 二ケ山遺跡・二ケ山下遺跡	栃木県教育委員会	５９．７．１６
年報ひろしまの遺跡 －昭和57年度における広島県の発掘調査－	(財)広島県埋蔵文化財調査センター	５９．７．１９
東京都埋蔵文化財調査報告　第11集 八丈町　湯浜遺跡	東京都教育委員会	５９．７．２１
京都府遺跡調査概報　第５冊 １．孤谷横穴群 ２．広 隆 寺 跡 ３．長 岡 宮 跡　第119次	(財)京都府 埋蔵文化財調査研究センター	〃
京都府埋蔵文化財情報　第11号	同	〃
南河原坂第４遺跡　－調査概要－　コピー－	千葉市土気地区遺跡調査会	５９．７．２３
土気駅南地区の遺跡	同	〃
下郷桑原遺跡	(財)広島県埋蔵文化財調査センター	５９．７．２７
岡田山第３号古墳発掘調査報告 －農林業同和対策事業（岡田林道新設工事）に伴う－	同	〃
法恩地南古墳	同	〃
駄荷古墓発掘調査概報	同	〃
小林１号窯跡発掘調査報告	同	〃
松永バイパス建設地内埋蔵文化財発掘調査報告	同	〃
御堂西古墳群発掘調査報告 －庄原市板橋町・庄原カントリークラブ内所在遺跡の調査－	同	〃
糸井古墓群発掘調査報告 －県営圃場整備事業糸井地区に係る埋蔵文化財の発掘調査－	同	〃
横山城跡発掘調査報告	同	〃
隠地上組遺跡 －庄原地区農村基盤総合整備パイロット事業（木戸工区）に伴う発掘調査報告書－	同	〃
山陽自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告(II)	同	
中尾（遺物篇） －関越自動車道（新潟線）地域埋蔵文化財発掘調査報告書第６集－	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	５９．８．１

書　　名	寄　贈　者	受　入　日
君津郡市文化財センター研究紀要　II	(財)君津郡市文化財センター	〃
(財)君津郡市文化財センター発掘調査報告書　第4集	同	〃
祝崎古墳群　戸崎城山遺跡発掘調査報告書		
(財)君津市文化財センター発掘調査報告書　第5集	同	59．8．1
二間塚遺跡群確認調査報告書		
(財)君津郡市文化財センター発掘調査報告書　第6集	同	〃
高千穂古墳第11・12号墳発掘調査報告書		59．8．2
昭和59年度　第1回文化財教養講座	(財)君津郡市文化財センター	59．8．17
千葉県文化財センター　研究紀要　8	同	〃
千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書VIII	同	
船尾町田遺跡，谷田木曽地遺跡，谷田神楽場遺跡		〃
千葉東南部ニュータウン14	同	
ーバクチ穴遺跡，有吉遺跡（第3次）・有吉南遺跡ー		
千葉東南部ニュータウン15	同	〃
ー馬ノ口遺跡，有吉城跡，白鳥台遺跡ー		〃
新東京国際空港 埋蔵文化財発掘調査報告書VI	同	
ーNo.7遺跡ー		
千葉急行線内埋蔵文化財発掘調査報告書I	同	〃
鷲谷津遺跡，観音塚遺跡，山ノ神遺跡，大森第一遺跡，荒立遺跡		
市原市瀬又北・瀬又南，千葉市大木戸板倉町遺跡	同	〃
ー千葉外房有料道路建設予定地内埋蔵文化財調査報告書ー		〃
千葉市谷津台貝塚	同	〃
市原市雪解沢遺跡	同	〃
ー千葉県立市原園芸高等学校グランド造成に伴う埋蔵文化財調査報告書ー		
諸川遺跡発堀調査報告書	(財)滋賀県文化財保護協会	59．8．22
ー西浅井町菅浦所在諸川瓦窯跡の調査ー		
馬場遺跡発堀調査報告書	同	〃
ー彦根市川瀬馬場町ー		
金ケ森西遺跡発堀調査報告書	同	〃
ー湖南中部流域下水道管理用道路関連遺跡発掘調査報告書IIー		
近畿自動車道和歌山線建設に伴う成合遺跡第一次発掘調査概要	(財)大阪文化財センター	59．8．28
近畿自動車道和歌山線建設に伴う観音寺遺跡第一次発掘調査概要	同	〃
房総のあけぼのI	千葉県教育委員会	59．9．3
貝塚と弥生のむら　ーふるさとの遺跡シリーズ1ー		
千葉東南部ニュータウン1	同	〃
ー椎名崎古墳群（第1次）ー		
千葉東南部ニュータウン2	同	〃
ー木戸作遺跡（第1次）ー		
沼南町埋蔵文化財小報第2集	同	〃
天神向原遺跡		
大井東部地区遺跡群第2次調査概報		
千葉県印旛郡酒々井町	同	〃
伊篠越徳遺跡調査報告		
山武考古学研究所年報　No.2		〃
関宿町埋蔵文化財調査報告第1集	同	59．9．3
ー圃場整備事業に伴なう遺跡の確認・調査ー		

書　　名	寄　贈　者	受　入　日
佐倉江原台遺跡発掘調査概報	同	〃
竜角寺古墳群発掘調査概報	同	〃
―第１次（昭和57年度）―		
昭和58年度　市川東部遺跡群発掘調査報告	同	〃
千葉県我孫子市日秀遺跡遺構確認調査概報	同	〃
千葉県富津市東天王台遺跡	同	〃
千葉東南部ニュータウン３	同	〃
―有吉遺跡（第１次）―		
千葉東南部ニュータウン３	同	〃
―有吉遺跡（第１次）―　図版編		
阿玉台北遺跡	同	〃
袖ケ浦町山野貝塚	同	〃
付・木更津市下部多山供養塚		
飯富山野貝塚出土表　２部		
古作貝塚　―縄文時代後期貝塚の調査―	同	〃
（本文編）		
古作貝塚　―縄文時代後期貝塚の調査―	同	〃
（図版編）		
千葉県下総町　名木大台遺跡	同	〃
名木小学校移転新築に伴なう埋蔵文化財調査		
滋賀県文化財目録　昭和59年度追録	(財)滋賀県文化財保護協会	５９．９．６
ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書Ⅺ－２	同	〃
北陸自動車道関連遺跡発掘調査報告書Ⅸ	同	〃
―伊香郡余呉町坂口遺跡―		
増訂　長柄町の文化財		５９．９．８
八千代市権現後遺跡	(財)千葉県文化財センター	〃
―萱田地区埋蔵文化財調査報告書Ⅰ―		
八千代市権現後遺跡　図版	同	〃
―萱田地区埋蔵文化財調査報告書Ⅰ―		
常盤自動車道埋蔵文化財調査報告書Ⅱ	同	〃
―花前Ⅰ・中山新田Ⅱ・中山新田Ⅲ―		
富津市岩坂大台遺跡	同	〃
遺跡ガイドブック２	同	〃
埋もれた歴史　―常盤道の遺跡から―		
遺跡ガイドブック１　遺跡をたずねて	同	〃
―八千代市萱田地区の昔のようす―		〃
成東町真行寺廃寺跡研究調査報告	同	〃
千葉県文化財センター年報　No.９	同	〃
研究連絡誌　第５号	同	５９．９．８
研究連絡誌　第６号	同	〃
〃　　第７・８合併号	同	〃
房総考古学ライブラリー１	同	〃
先土器時代		
東京都埋蔵文化財センター年報３　昭和57年度	(財)東京都埋蔵文化財センター	５９．９．１０
東京都埋蔵文化財センター調査報告第４集	同	〃
多摩ニュータウン遺跡―昭和57年度―		

書　　名	寄　贈　者	受入日
〃　（第1分冊）		
〃　（第2分冊）		
〃　（第3分冊）		
〃　（第4分冊）		
〃　（第5分冊）		
長岡京市埋蔵文化財センター年報　昭和58年度	(財)長岡京市埋蔵文化財センター	59. 9.13
長岡京市埋蔵文化財調査報告書　第1集	同	〃
千葉県栗源町埋蔵文化財分布地図	栗源町教育委員会	〃
千葉県香取郡栗源町　台の内古墳調査報告	同	〃
いちはら市政概要－昭和59年版－		59. 9.17
町田市戸場遺跡	町田市教育委員会	59. 9.25
－縄文時代早期集落跡の調査報告書－		
市原市統計書　昭和53年版		59. 9.27
〃　昭和54年版		〃
〃　昭和55年版		〃
〃　昭和56年版		〃
〃　昭和57年版		〃
〃　昭和58年版		〃
長岡京市文化財調査報告書　第12冊	長岡京市教育委員会	59.10. 1
〃　第13冊	同	〃
龍子向イ山	兵庫県教育委員会	59.10. 8
兵庫県文化財調査報告第23冊	同	〃
龍子長山ノ号墳		
－山陽自動車道関係埋蔵文化財調査報告II－		
ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書X－4	(財)滋賀県文化財保護協会	〃
県道山賀－守山甲線単独工事に伴う遺跡発掘調査報告書	同	〃
－大門遺跡－		
県道六条－野洲線工事に伴う関連遺跡発掘調査報告書I	同	〃
－北東遺跡－		
国道365号線バイパス工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書II	同	〃
－伊香郡高月町井口・柏原遺跡－		
〃　（図版編）		
年　報　－4－昭和58年度	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団	59.10. 9
研究紀要　1983	同	〃
埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第31集	同	〃
東北新幹線関係　－II－		
赤羽・伊奈氏屋敷跡		
埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第32集	同	59.10. 9
関越自動車道関係　－XVIII－		〃
屋田・寺ノ台		
埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第33集	同	〃
関越自動車道関係　－XIX－		
台　耕　地(II)		
埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第34集	同	〃
上越新幹線埋蔵文化財発掘調査報告－VII－		
三ケ尻林(2)・台		

書　　名	寄　贈　者	受　入　日
埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第35集 住宅・都市整備公団・浦和南部地区 明花向・明花上ノ台・井沼方馬堤・とうのこし	同	〃
埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第36集 国道122号　バイパス関係　－II－ 久　　台	同	〃
埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第37集 一般国道254線川島バイパス東松山地内　－II－ 古凍根岸裏	同	〃
埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第38集 県道蛭川・普済寺線関係 向田・権現塚・村後	同	〃
埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第39集 県道大宮東京線関係　II 中原後・石御堂	同	〃
埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第40集 国道122号バイパス関係　－III－ 閏戸足利	同	〃
国學院大學文学部考古学実習報告　第７集 森山塚　千葉県富津市飯野古墳群	國學院大學文學部考古学研究室	〃
国學院大學文学部考古学実習報告　第８集 物見処遺跡1984　東京都三宅村伊豆	同	〃
神奈川県立埋蔵文化財センター年報３	神奈川県立埋蔵文化財センター	〃
神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告５ 小田原城跡八幡山遺構群 県立小田原高等学校体育館建設にともなう調査	同	〃
広ケ作遺跡	山武考古学研究所	５９．１０．１６
台の内古墳	同	〃
千葉県長生郡一宮町 一宮城跡城之内遺跡	同	〃
千葉県船橋市　西ノ台遺跡	同	〃
新潟県東蒲原郡津川町　原　遺　跡	同	〃
千葉県東葛飾郡沼南町　経塚遺跡	同	〃
千葉県千葉市　駒込遺跡	同	〃
千葉県印旛郡印西町 稲荷峠遺跡	同	〃
茶木畑遺跡発掘調査概報 －田方学区新設高校敷地内埋蔵文化財発掘調査－	財静岡埋蔵文化財調査研究所	５９．１０．１９
原川遺跡昭和58年度発掘調査概報 －袋井バイパス（掛川地区）埋蔵文化財発掘調査－	同	〃
静岡埋蔵文化財調査研究所調査報告　第１集 八ツ島遺跡　伊豆中央連埋蔵文化財発掘調査報告書	同	〃
静岡埋蔵文化財調査研究所調査報告　第２集 笛吹段・兎沢古墳群発掘調査報告書 －昭和58年度県営畑総高草地区埋蔵文化財発掘調査－	同	〃
あじき台遺跡		５９．１０．２３

書　　名	寄　贈　者	受　入　日
－千葉県印旛郡栄町所在遺跡の調査－		
荒砥東原遺跡	㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団	〃
昭和53年度県営圃場整備事業荒砥南部地区に係る埋蔵文化財発掘調査報告書		
奥原古墳群　付図１部	同	〃
三日市地区特定土地区画整理事業施行地区内	㈶大阪文化財センター	〃
片添遺跡第１次発掘調査報告書		
第２回近畿地方埋蔵文化財担当者研究会資料	同	〃
開館３周年記念特別企画展	長野市立博物館	59.10.25
縄文人のくらし		
真里谷城跡	木更津市教育委員会	59.11.16
開館５周年記念特別展　描かれた大田区	大田区立郷土博物館	〃
下総国分尼寺跡Ⅱ　昭和58年度調査報告書	市立市川考古博物館	59.11.19
昭和58年度　市立市川考古博物館年報	同	〃
枚方市文化財年報Ⅴ　1984	㈶枚方市文化財研究調査会	59.11.26
特別展覧会　原始・古代の農工具	袖ケ浦町郷土博物館	〃
神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告６	神奈川県立埋蔵文化財センター	59.11.28
西管領屋敷やぐら群		
昭和59年度 鎌倉市山ノ内地区内急傾斜地崩壊対策事業にともなう調査		
亀井遺跡Ⅱ	㈶大阪文化財センター	59.11.30
寝屋川南部流域下水道事業長吉ポンプ場築造工業関連埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ　－本文編－		
－図版編－	同	同
長岡京跡	㈶長岡京市埋蔵文化センター	59.12.3
展示ガイド	埼玉県立博物館	同
友井東（その１）	㈶大阪文化財センター	59.12.4
近畿自動車道平理～吹田線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書　－本文編－		
〃　－図表別編－	同	〃
昭和57年度　京都市埋蔵文化財調査概要	㈶京都市埋蔵文化財研究所財	〃
㈶北海道埋蔵文化財センター調査報告　第14集	㈶北海道埋蔵文化財センター	〃
美沢川流域の遺跡群Ⅶ		
－新千歳空港建設用地内埋蔵文化財発掘調査報告書－		
㈶北海道埋蔵文化財センター調査報告　第15集	同	59.12.4
美深町　楠遺跡		
－天塩川改修事業の内楠築堤工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書－		
㈶北海道埋蔵文化財センター調査報告　第16集	同	〃
栄丘遺跡		
－日高支庁庁舎移転改築用地内埋蔵文化財発掘調査報告書－		
上越新幹線関係埋蔵文化財発掘調査報告　第３集	㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団	59.12.10
熊野堂遺跡(1)		
群馬県群馬町井出字東下井出・福島字熊野堂所在熊野堂遺跡第１地区の調査		
大釜遺跡・金山古墳群	同	〃
－関越自動車道(新潟線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書　第７集		
城平遺跡・諏訪遺跡	同	〃
一般国道17号線（月夜野バイパス）改築工事に伴なう埋蔵文		

書　　名	寄　贈　者	受　入　日
化財調査報告書　－Ⅰ－		
賀茂遺跡	同	〃
国道122号（太田バイパス）道路改良工事に伴う埋蔵文化財		
発掘調査報告書Ⅲ		
県立甲西高校建設に伴う井戸遺跡発掘調査報告書	㈶滋賀県文化財保護協会	59.12.13
法養寺遺跡発掘調査報告書　－犬上郡甲良町－	同	〃
京都府遺跡調査概報　第7冊	㈶京都府 埋蔵文化財調査研究センター	59.12.17
京都府埋蔵文化財情報　第12号	同	〃
埋蔵文化財ニュース　47	宮本敬一	59.12.21
〃　48	同	〃
千葉県山武郡山武町坂本遺跡発掘調査報告書	山武町教育委員会	59.12.25
奈良市埋蔵文化財調査報告書　昭和56年度	奈良市教育委員会	60. 1. 4
〃　昭和58年度	同	〃
平城京東市跡推定地の調査Ⅱ　第4次発掘調査概報	同	〃
小山遺跡群Ⅲ	町田市小山田遺跡調査会	60. 1.29
〃　Ⅳ	同	〃
〃　Ⅴ	同	〃
〃　Ⅵ	同	〃
増補改編　鳥羽離宮跡　1984	㈶京都市埋蔵文化財研究所	60. 1.31
打越北上原古墳群第3号墳	袖ケ浦町教育委員会	〃
鼻欠遺跡	同	〃
－千葉県袖ケ浦町立昭和中学校建設に伴う発掘調査－		
ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書Ⅹ－5－1	㈶滋賀県文化財保護協会	〃
大網山田台遺跡－1983年度確認調査概要－	㈶山武郡南部地区文化財センター	〃
付図5部		
日本貨幣型録　84年版	矢島秀朗	〃
測量実務必携　吉沢孝和　著	中央航業	60. 2. 5
収蔵品図録　第1集　中川貝塚特集	大宮市立博物館	60. 2.13
一般国道196号　今治道路埋蔵文化財調査報告書Ⅰ　本文編	愛媛県埋蔵文化財調査センター	60. 2.18
〃　写真編		〃
佐堂（その1）	㈶大阪文化財センター	60. 2.19
近畿自動車道天理～吹田線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書		
上越新幹線関係埋蔵文化財発掘調査報告　第1集	㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団	60. 2.20
十二原遺跡・大原遺跡・前中原遺跡		
県立文書館遺跡	同	60. 3. 2
県立文書館建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書		
町田市川島谷遺跡群Ⅰ　付図5部	町田市小田急野津田 金井団地内遺跡調査会	60. 3. 6
〃　Ⅱ	同	〃
岩手県埋文センター文化財調査報告書　第76集	㈶岩手県埋蔵文化財センター	〃
平船Ⅲ遺跡発掘調査報告書		
東北縦貫自動車道関連遺跡発掘調査		
岩手県埋文センター文化財調査報告書　第77集	同	〃
長者屋敷遺跡発掘調査報告書(Ⅲ)		
東北縦貫自動車道関連遺跡発掘調査		
（遺物編－本文）		
（遺物編－図版）	同	〃

書　　名	寄　贈　者	受　入　日
岩手県埋文センター文化財調査報告書　第78集 嶽II遺跡発掘調査報告書 東北縦貫自動車道八戸線建設関連遺跡発掘調査	同	〃
岩手県埋文センター文化財調査報告書　第79集 湯の沢III・繋沢II・石神II遺跡発掘調査報告書 東北縦貫自動車道関連遺跡発掘調査	同	〃
岩手県埋文センター文化財調査報告書　第80集 小屋畑遺跡発掘調査報告書 国道45号線久慈バイパス関連遺跡発掘調査	同	〃
岩手県埋文センター文化財調査報告書　第81集 滝沢城跡発掘調査報告書 急傾斜地崩壊対策工事関連遺跡発掘調査	同	〃
紀　要　IV	同	〃
神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告７ 小　池　遺　跡	神奈川県立埋蔵文化財センター	６０．３．２０
神奈川県埋蔵文化財調査報告27 昭和58年度　県埋蔵文化財緊急発掘調査概要 昭和58年度　県内埋蔵文化財発掘調査概要	神奈川県教育委員会	６０．３．２７
野草及友　第15号	市原植物研究会	〃
青平古窯跡・新古古窯跡発掘調査報告書	湖西市教育委員会	６０．３．２８
大沢第４・５地点遺跡発掘調査報告書	同	〃
観音山遺跡発掘調査報告書	同	〃
国道１号線湖見バイパス（湖西地区）宿南No.４遺跡（元屋敷遺跡）確認調査報告書	同	〃
館蔵品図録　I　1983	名古屋市見晴台考古資料館	６０．３．３０
〃　　II　1981	同	〃
青平古窯跡・新古古窯跡発掘調査報告書	湖西市教育委員会	〃

財団法人 市原市文化財センター既刊調査報告書

- ◦ 皿郷田茂遺跡　　￥480　（〒別）
- ◦ 石川城郭跡　　￥840　（〒別）
- ◦ 片又木遺跡　　￥1.200（〒別）
- ◦ 池ノ谷遺跡・福増遺跡　　￥800　（〒別）
- ◦ 永田・不入窯跡　　￥750　（〒別）

市原市文化財センター年報

（昭和59年度）

昭和60年12月25日　発行

発　行　　財団法人　市原市文化財センター
〒290-03　千葉県市原市馬立817
TEL　0436(95)2755

印　刷　　三陽工業㈱市原支店
〒290　千葉県市原市五井5510の1
TEL　0436(22)4348